



公益社団法人

鹿児島県診療放射線技師会

会報

令和8年1月

第144号



公益社団法人 鹿児島県診療放射線技師会

鹿児島市東坂元4丁目28-11

TEL 099-248-0028

鹿児島県診療放射線技師会 会報 第144号 目次

【巻頭言】	鹿児島県診療放射線技師会 副会長 恵 智徳	2
【お知らせ】	公式 LINE 登録のお願い	3
	会報電子化のお知らせ	4
	組織理事よりお知らせ	5
【開催報告】	第52回 大隅地域研修会	7
	第62回 鹿児島 CT 研究会	9
	第30回 鹿児島 MRI 研究会	11
	第46回 南薩地域研修会	13
	第42回 市民健康まつり	15
	第79回 鹿児島消化器画像研究会 第29回 鹿児島超音波研究会	16
	第20回 九州放射線医療技術学術大会	17
	第11回 鹿児島乳腺画像研究会	22
	令和7年度 鹿児島市夜間急病センター第1回勤務者研修会	23
	令和7年度 秋季学術大会 霧島始良地域研修会	24
	令和7年度 放射線管理士部会研修会	38
	令和7年度 第3回告示研修	39
【ニュース】	第15回 南薩地区放射線技師スポーツ交流大会『下園杯』	40
【開催案内】	第63回 鹿児島 CT 研究会	42
	第80回 鹿児島消化器画像研究会	43
	令和7年度 鹿児島さくら RT 研修会	44
【議事録】	令和7年度 第3回常務理事会 議事録(抄)	45
	令和7年度 第4回理事会 議事録(抄)	49
【行事・活動予定】		54
【鹿児島県診療放射線技師会 役員名簿】		56
【編集後記】		57
【企業広告】		58

《巻頭言》

鹿児島県診療放射線技師会 副会長
恵 智徳

新しい年を迎え、会員の皆さまに心よりご挨拶申し上げます。日々の臨床業務、教育、研究、そして地域医療へのご尽力に深く敬意を表します。昨年も多くの変化がありましたが、診療放射線技師としての専門性と使命感が、患者さんや地域社会を支える大きな力となったことを改めて実感しております。

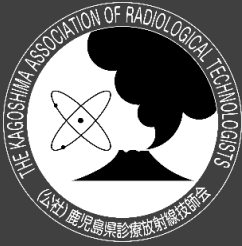
本年は、診療報酬改定が予定されており、私たちの業務にも少なからず影響が及ぶことが予想されます。画像診断・放射線治療の精度向上や検査の効率化、安全管理の徹底など、改定の方向性は私たちの専門性と直結しています。診療報酬の変化は単なる制度上の調整ではなく、医療の質を高め、患者さんにより良いサービスを提供するための重要な契機でもあります。技師一人ひとりがその意味を理解し、現場での実践に活かすことが求められています。

また、タスクシフト/シェア、AI 技術や新しい撮像法・治療法の導入が進み、診療放射線技師の役割はますます広がっています。これまで以上に多職種連携が重要となり、私たちの専門知識と判断力がチーム医療の中で発揮される場面が増えるでしょう。こうした変化に対応するためには、継続的な学習と研鑽が不可欠です。研修会や学会活動を通じて知識を共有し、互いに高め合う姿勢を大切にしていきたいと思えます。

さらに、後進の育成も大きな課題です。新人技師が安心して学び、成長できる環境を整えることは、組織の持続性を支える基盤となります。教育体制の充実、施設間の協力、そして先輩技師の温かい指導が、未来を担う人材を育てます。

私たちの仕事は「見えないものを見える化する」ことで患者さんの診断と治療を支える、誇りある使命です。診療報酬改定をはじめとする制度の変化や技術革新を前向きに捉え、挑戦を続ける姿勢こそが、鹿児島県診療放射線技師会の力となります。

本年も、会員の皆さまと共に歩み、地域医療の発展に寄与できることを願っております。どうぞ変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



会員専用 LINE 公式アカウント



友だち追加はこちら!!

- ① 行事・研究会のお知らせ
- ② 研究会アーカイブ配信案内
- ③ 会員限定サポート情報
- ④ 過去の会報 (今後予定)
- ⑤ 災害・緊急時の連絡

鹿児島県診療放射線技師会 会報 の電子化について

鹿児島県診療放射線技師会
会長 大迫俊一

これまで本会では、会報発行にかかる費用の削減を目的に、ページ数の制限や会報とニュースの発行に関する見直しなど、様々な工夫を行ってまいりました。

しかしながら、近年の印刷費や郵送費の高騰により、1回の会報発行にかかるコストが増加傾向にあります。

そこで本会では、令和8年度より、会報およびニュースレターの電子化（PDF形式）を段階的に導入することを検討しています。

電子化された会報・ニュースレターは、鹿児島県診療放射線技師会ホームページの会員専用サイトに掲載し、会報およびニュースレターをアーカイブ化することで、いつでも自由に閲覧できる環境を整備する予定です。

また、電子化により削減される経費を活用することで、会報を全面カラー化や、内容の充実を図るとともに、地域活動や研究会等への支援にも積極的に充てていく方針です。

これにより、より多くの会員の皆さまにとって有益で魅力ある情報発信が可能になると考えています。

なお、紙媒体での会報を引き続き希望される会員の皆さまには、従来どおり郵送にてお届けする対応を予定しております。

電子化に関するご意見やご希望等をお伺いするため、今回アンケートを実施いたしますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

下記の URL または 2次元バーコードからアンケートにお答えください。

URL : <https://forms.gle/7BViy4QHyn7D7ei88>

締め切り : 2026年2月28日(土)



組織理事よりお知らせ

組織担当 木場淳

1.入会案内につきまして

(公社)日本診療放射線技師会では、今年度より技師籍登録初年度の入会費用が「無料!」となっております、大変お得に入会することが出来ます。(※なお本会分の年会費 7500 円は必要です)

同施設で入会されていない新人の方や、お知り合いで未入会の方がいらっしゃいましたら是非とも入会をお勧めください。

入会種別		入会金	年会費	初年度合計
通常入会	日本診療放射線技師会	5000	14000	19000
	鹿児島県診療放射線技師会	0	7500	7500
				26500
技師籍登録初年度	日本診療放射線技師会	無料	無料	無料
	鹿児島県診療放射線技師会	0	7500	7500
				7500

2. 退会手続きにつきまして

当会からの退会を希望される場合は、当会ホームページの会員サイトにログインしていただき、ページ下の「退会手続き」からのオンライン申請をお願い致します。不可能な方は退会届ダウンロードし当会宛の郵送でも構いませんが時間を要してしまいます。また当会では電話・FAX・メールでの届出はできませんのでご了承ください。なお年度末退会をお考えの方は 2 月末以降に退会申請された場合、原則、次年度会費請求される可能性がありますのでご注意ください。

※退会する場合は、当年度までの会費を納める必要があります。

※当会退会と同時に公益社団法人日本診療放射線技師会も退会となります。



鹿児島県診療放射線技師会ホームページメニュー「会員サイト」よりログイン

The image shows a screenshot of the website's main menu with three main sections: '登録内容変更' (Change registration information), '退会手続き' (Withdrawal procedure), and '各種申請' (Various applications). The '退会手続き' section is highlighted with a red circle. Below the menu items are buttons for '日本診療放射線技師会 (JART情報システム)', '退会届 (届) オンライン', and '各種申請 オンライン'.

会員サイトトップページ下「退会手続き」よりオンライン申請

3.会員情報の変更について

会員情報が変更になられた際には JART 会員情報システム (JARTIS) 登録の変更をお願いします。
また県ホームページの会員サイトも個人情報の編集をお願い致します。
本会はこの情報を基に活動させていただいております。皆様のご協力をお願いいたします。

①JART 情報システムの変更方法

JARTIS ログイン → 「登録情報を確認・変更する」 → 「編集」もしくは "鉛筆" マークをクリック

■会員情報

[病院等施設の名称や所在地を登録・変更する](#) [会費の免除を申請する](#) [ラダーの取得状況を確認する](#)

本システムでは病院等施設の名称や所在地を一元管理しております。開業に伴う新規登録、移転等による所在地変更、合併等による名称変更を連絡する場合は、こちらより承っております。※手続きの詳細はこちらをご覧ください。

以下の条件に該当する場合は会費の一部、もしくは全額が免除されます。会費の免除申請を希望される方は、こちらよりご申請いただけます。

○休職のための会費免除申請
・長期療養、介護、海外勤務等により休職する場合
・出産・育児により休職する場合

クリニカルラダー・マネジメントラダーのレベルやカウントなどの取得状況をご確認いただけます。

[登録情報を確認・変更する](#)

ご自身の登録情報(住所・勤務先・学位等)の確認と変更を行っていただけます。

※このページの「連絡先(会誌・書類等送付先)」が会誌の送付先となります。
送付先を変更される際は、こちらのプルダウンメニュー(自宅、勤務先)より選択してください。

②県ホームページ会員サイトの編集方法

会員サイトログイン→左上 CacaoBiz アイコン→設定→個人情報編集→更新保存

鹿児島 太郎 (カゴシマ タロウ)

パスワード ログインパスワード

電話 電話番号

生年月日 性別 選択

個人情報 写真

勤務先名 勤務先

勤務先〒 勤務先住所

プライベートメール 電話 携帯 連絡先住所 自宅

鹿児島県診療放射線技師会 第52回大隅地域研修会 開催報告

徳田脳神経外科病院 重田洋一

第52回大隅地域研修会を下記の日程で開催されたので報告します。

日 時 令和7年9月20日(土)

時 間 14時30分～18時00分

会 場 大隅鹿屋病院 本館 9階会議場 現地開催のみ

参加費 鹿児島県診療放射線技師会会員・学生・その他医療職:無料 非会員:2000円 メーカー:1000円

プログラム

進行:石原 剛

【開会の挨拶】(公社)鹿児島県診療放射線技師会 大隅地域理事 熊谷 繁夫

【技師会活動報告】(公社)鹿児島県診療放射線技師会 理事 愛下 剛

【第51回大隅地域研修会アンケート報告】 大隅地域世話人会 学術担当 牧迫 佑紀

【話題提供】14:50～15:50

「コニカミノルタ回診用 X 線撮影装置 AeroDR TX m01 のご紹介」

コニカミノルタジャパン株式会社 ヘルスケアカンパニー 九州支社 営業推進 G 柴田敏宏

「GE HealthCare:最新画像再構成技術」

GE ヘルスケアジャパン株式会社 CT部 平本 卓也

「キヤノン CT 最新情報のご紹介」

キヤノンメディカルシステムズ株式会社 九州支社営業推進部 山岸悠樹

【教育講演】16:00～17:00

「放射線技師のための CT 緊急診断ガイド:STAT 所見マスターへの道」

大隅鹿屋病院 放射線科部長 小林 秀章 先生

休憩 10分 17:00～17:10

【テーマ討論】17:10～18:00

「STAT 画像報告が、できるようになろう！」

座長:相川 晃太

・STAT 画像所見報告ガイドラインの概要

昭南病院 相川 晃太

・大隅地域施設報告(大隅鹿屋病院・鹿屋医療センター・おぐら病院・池田病院・垂水中央病院・昭南病院

・徳田脳神経外科病院)

・ディスカッション・フリートーク

【閉会の挨拶】(公社)鹿児島県診療放射線技師会大隅地域理事

熊谷 繁夫

今回の研修会は現地開催のみで開催されました。参加者は、技師33名(内、地域外3名)、医師1名、メーカー7名)にご参加いただきました。今回は話題提供として、コニカミノルタジャパン株式会社柴田敏宏先生より回診用回診用 X 線撮影装置 AeroDR TX m01 のご紹介(ワイヤレス動態撮影)、GE ヘルスケアジャパン株式会社平本卓也先生より DualEnergy をもとにした新しい再構成技術のディープラーニングを用いて開発された次世代再構成法の紹介、キヤノンメディカルシステムズ株式会社山岸悠樹先生より、キヤノン CT 最新情報のご紹介(Aquilion Rise、PIQE)の情報提供をご提供いただきました。

次に教育講演としては、大隅鹿屋病院放射線科部長小林秀章先生より「放射線技師のための CT 緊急診断ガイド:STAT 所見マスターへの道」という内容のもと、STAT 画像へのニーズが高まっていくなか、最初に画像を見る診療放射線技師に知ってほしい画像を症例から学ぼうということで、CT 画像をメインに実際の症例画像を会場で供覧しながら、頭部(脳疾患)、胸部(肺疾患)、腹部(freeair、穿孔など)などのポイントをわかりやすく解説、指導いただきました。

また、特別講演後のテーマ討論では、各施設の STAT 画像の運用状況や実際の症例報告がありました。その後のフリートークで①STAT 画像を日常の業務に落とし込む必要性や、②診療放射線技師の知識、技量の向上、③所見を見つけるための教育・研修をどうしていくか?④各施設でガイドラインを作成する。⑤夜間帯(技師1名)の対応。⑥過剰報告にならないか?などの活発な意見交換がされました。全体的に見ると、非常に充実した研修会だったのではと思います。

会場を提供していただいた大隅鹿屋病院様をはじめ、教育講演をしていただいた小林秀章先生、研修会に協力・お手伝いいただいた皆様には感謝申し上げます。また、ご多忙にもかかわらずたくさんの参加をいただきありがとうございました。



研修会風景



開会の挨拶



教育講演

大隅鹿屋病院 小林 秀章 先生



懇親会

第 62 回鹿児島 CT 研究会 開催報告

鹿児島医療センター 岩元優樹

開催報告

今回の CT 研究会は、テーマを「急性腹症」にした。10 年ぶりに「急性腹症診療ガイドライン 2025」が改訂されたこともあり、あらためてガイドラインの内容を理解し、診療放射線技師としての画像診断支援の役割を再確認することとした。各施設における対応や情報の共有を通じて、診療の質の向上を図ることを目的とした。

はじめに、今年 2 月に新築移転のあった霧島市立医師会医療センターに新規導入された CT 装置の紹介を二渡 氏にさせていただいた。次に、県内 5 施設の急性腹症プロトコル紹介と症例発表があった。各施設の対応や運用の特色を紹介が行われたので、自施設での業務改善にむけて大変参考になる発表であった。

特別講演では、鮎川先生より「急性腹症ガイドライン 2025」の改訂ポイントとして従来版からの主な変更点について解説が行われた。特に、画像診断アルゴリズムの更新、CT の適応判断、緊急性評価の基準など、放射線技師の業務にも関わる重要な内容について具体的に説明された。また、症例画像も多く提示し、虫垂や、腸閉塞の閉塞機転の同定方法など具体的にわかりやすくご教示いただいた。

ガイドライン改訂の要点を理解し、放射線技師として急性腹症対応における役割を再確認する機会となった。症例共有を通じて撮影技術や画像評価の標準化に向けた意識が高まり、地域全体での放射線診療の質の向上が期待され、今後の業務改善に活かせる有意義な勉強会であった。

開催日時： 2025 年 9 月 25 日（木） 19：00～21：00

開催場所： Web 開催（Webex）

参加者： 会員 122 名、非会員 2 名

プログラム

【開会挨拶】

鹿児島 CT 研究会世話人 米盛病院 福留 慎也 氏

【施設紹介】

CT 装置紹介 『 GE Revolution CT』 霧島市立医師会医療センター 二渡 智英 氏 智英 氏

【施設発表】

テーマ『急性腹症プロトコル』

いまきいれ総合病院 重久 麻由 氏

南風病院 抜水 悠太郎 氏

大井病院 副島 恭平 氏

厚生連病院 竹崎 美里 氏

鹿児島医療センター 小林 伊吹氏

【特別講演】『急性腹症ガイドライン+α』

鹿児島医療センター 放射線科 医師 鮎川 卓朗 先生

【閉会挨拶】

鹿児島 CT 研究会代表世話人 大井病院 愛下 剛 氏



司会：福留氏



代表世話人：愛下氏



特別講演
鮎川 卓朗 先生

疫学	みたいなもの	結局やばい疾患って何があった？
<p>緊急OPEの適応となる疾患 血管の破裂, 腹腔内出血, 腸管虚血/壊死, 汎発性腹膜炎, 炎症性の急性腹症など</p> <p>致死的な消化管穿孔となる部位 食道穿孔や下部消化管穿孔など</p> <p>急変しやすい疾患 大動脈瘤破裂や大動脈解離による出血</p>		
		<p>薄い高吸収をひっかける 腹水の吸収値をはかる</p> <p>条件を変えてfree airをみつけに行く</p>

各論	急性虫垂炎の画像所見について
<p>虫垂炎の難しいポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 虫垂が同定困難なときがある。 稀に虫垂が右下腹部にないことがある。 穿孔(or穿通)した場合虚脱して、その他の穿孔や膿瘍と間違えやすい。 <p>虫垂同定のPOINT</p> <p>右下腹部をやみくもに探すのはダメ。 盲腸先端を見つける。そこから上に戻って 回腸末端が合流する場所を見つける。 盲端から回腸末端の間から出る虫垂を同定して その構造が盲端で終わることを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 糞石が先端にある場合は概ね大丈夫。 根部に石があって中にairないとダメ。 中にairがある場合は概ね大丈夫。 外にairがある場合はダメ。 	
<p>ネットー解剖学図鑑より引用</p>	

各論	腸閉塞の画像所見について
<p>読影の手順。鮎川の場合。</p> <ul style="list-style-type: none"> まずは腸閉塞なのか、イレウスなのか。簡単に見る。→腸管拡張程度や腸液のたまりの程度。 腸閉塞と判断したらまずは大腿ヘルニアと閉鎖孔ヘルニアを探す。(10秒くらいでわかる) 次にfree airの有無を確認。Free air見つけたら即連絡。 <p>なければ、次は大腸閉塞なのか、小腸閉塞なのか考える。</p> <p>大腸閉塞→糞便性腸閉塞、S状結腸軸捻転、大腸癌、骨盤内の炎症性の癒着くらい 小腸閉塞→やだなあ。腸管追うの大変だなあ。</p> <p>ここで治療方針にかかわるのが、血流障害の有無</p> <ul style="list-style-type: none"> 限局的な腸間膜の浮腫がないか。腸管気腫がないか。腸間膜静脈内のairがないか。門脈ガスがないか。 	

鮎川先生 スライド 抜粋

第30回 鹿児島MRI研究会 開催報告

鹿児島大学病院 大塚 洋和

【開催報告】

第30回鹿児島MRI研究会は、令和7年9月26日（金）18:30よりWeb配信で開催されました。今回は記念すべき30回目、そして8度目のオンライン開催となり県内外から30名の参加がありました。

メーカー講演では、株式会社フィリップスジャパンの岡田拓也氏が「Philips MR 最新情報のご紹介」と題し、最新MRI技術について講演されました。BlueSealマグネットは液体ヘリウムをわずか7Lしか使用しない先進的なシステムとして登場し、近年のヘリウムフリー化の流れを牽引する存在であり、ヘリウムフリー装置の最新情報について紹介されました。さらに、スタンバイモードを活用した電力効率の改善や、Dual AIを応用したSmartSpeed Preciseによる高分解能再構成技術など、環境性能と画像品質の両立を目指した進歩について話していただきました。

特別講演では、唐津赤十字病院の立川圭彦技師が「【開発×臨床×挑戦】現場から始まる“小さな気づき”の革新力 ～あなたの“いつもの工夫”が技術革新のはじまりに～」と題して講演されました。立川さんは自身の研究から論文化に至るまでの道のりを紹介し、日常の臨床業務の中の“小さな気づき”が研究の種（ネタ）となり、新たな技術革新へとつながるとお話しいただきました。また、研究発表を目的ではなく出発点とし、その先の論文化を見据える姿勢の大切さについて熱く語られました。講演は多くの質疑応答を交え、大変盛況のうちに終了しました。

鹿児島MRI研究会では、今後は現地開催を視野に入れ、県内のMRI担当者間での交流や情報共有の機会を再び広げていくこと、そして磁気共鳴専門技術者の認定研究会となれるよう目指しています。次回以降も多くの参加を得られるよう、引き続き充実した会の運営に努めていく予定です。

- 開催日時 令和7年9月26日（金）18:30 ～ 20:00
- 場所 Web開催

【内容】

1. メーカー講演 18:30～19:00 座長 鹿児島市立病院 池田 政美

『Philips MR 最新情報のご紹介』

株式会社フィリップス・ジャパン プレシジョンダイアグノシス事業部
MRモダリティセールススペシャリスト 岡田 拓也 氏

2. 特別講演 19:00～20:00 座長 鹿児島大学病院 大塚 洋和

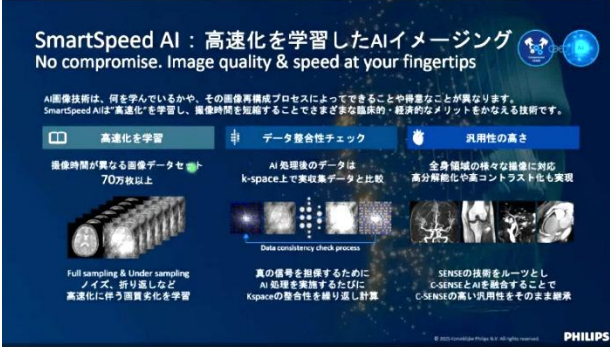
『【開発×臨床×挑戦】現場から始まる“小さな気づき”の革新力

～あなたの“いつもの工夫”が技術革新のはじまりに～ 』

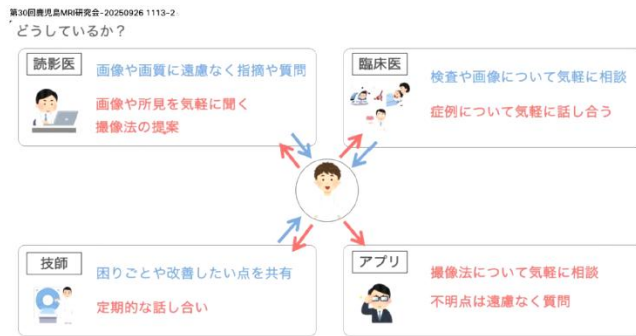
唐津赤十字病院 医療技術部 放射線技術課 立川 圭彦 技師

【開催の様子】

メーカー発表



特別講演



第30回鹿児島MR研究会-20250926 1113-2
研究発表するにしても...

ゴールをその先へ設定

GOAL 学会発表 ⇒ 論文

査読で数十個の指摘をされることもある

『質疑応答が恐怖』
『色々と指摘されたら どうしよう...』

⇒ その前に学会で指摘されている方がありがたい

⇒ あなたの研究に興味がある証拠

Reviseが大変

HAPPY



現場での小さな気づきを大切に
あなたの工夫や知識は技術革新の大きな種
『動き出さなきゃ何も始まらない』

代表世話人：鹿児島大学病院：大塚 洋和

世話人：いまきいれ総合病院：池田 真一, 浮田 啓一郎 / 南風病院：中原 武志

大隅鹿屋病院：永山 崇臣 / 鹿児島市立病院：池田 政美

鹿児島医療技術専門学校：迫田 和也 / 鹿児島大学病院：岩永 崇

令和7年度 南薩地域研修会 開催報告

南薩地域理事 医療法人和風会加世田病院 木佐貫 克朗

令和7年度第46回南薩地域研修会をハイブリッド配信にて、2025年9月27日(土)15時から18時で鹿児島県立薩南病院2階大会議室にて開催いたしました、研修会プログラムは以下の通りになります。

【開催内容】

1. 開会挨拶 公益社団法人 鹿児島県診療放射線技師会 会長 大迫 俊一
2. メーカー講演
「レケンビ」に関する最新の知見 エーザイ 梶 裕章 様
「ワークライフバランス向上に向けてMRI装置におけるAI技術の活用アップグレード」
キヤノンメディカルシステムズ 中村 洵太 様
3. 鹿児島 AI 研究会
「鹿児島 AI 研究会発足について」 相良病院 大迫 俊一 先生
「AI 入門」 鹿児島医療技術専門学校 長野 翔太 先生
「AI が変える放射線技師の未来～日常業務から専門分野まで生成 AI 活用の最前線～」
学校法人原田学園経営企画室 平原 大助 先生
AI 研究会とのディスカッション

【総括】

AI 研究会と合同開催で行われたため、会員43名、非会員2名、学生4名、メーカー他5名の合計54名(Web参加21名)と多数の参加者の中で行われました。

合同開催のAI研究会の会員による講演において、

「鹿児島 AI 研究会発足について」と題して相良病院の大迫俊一先生から、AI研究会の発足の経緯、目的と今後の目標、AIを学び、正しく理解し、安全に現場へ届ける。悩みや情報共有をするための交流の場である。鹿児島から全国へそして、全世界へ発信できる研究を目指す。DX/AI:非付加価値作業の自動化について。本会是一緒に作っていく研究会であり、参加して出来たものを共有しましょう、と御講演して頂きました。

次に「AI 入門」と題して鹿児島医療技術専門学校教諭の長野翔太先生より、AIが現代社会にもたらした内容を、産業革命とAIの歴史を上手に織り交ぜながら、また現在のAI事情についても講演して頂きました。

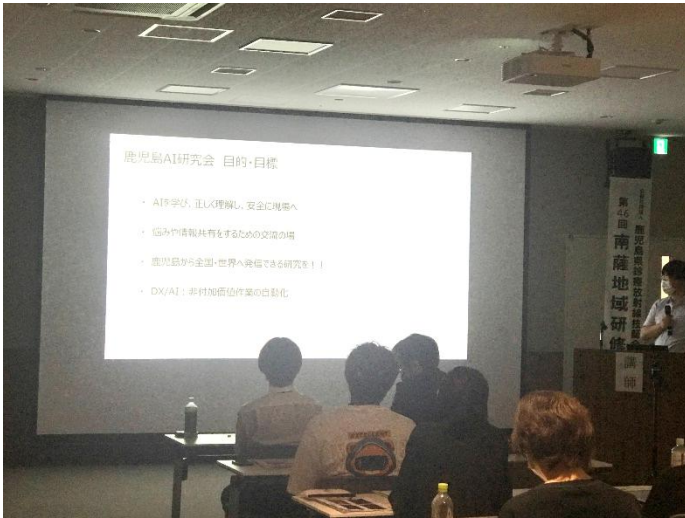
講演最後に「AIが変える放射線技師の未来～日常業務から専門分野まで生成AI活用の最前線～」とし題して学校法人原田学園経営企画室の平原大助先生より、実際にAIを使った臨床業務への実用例や御自身がAIを使って業務に利用している無料AIツールの御紹介、AIを動かすための文章(プロンプト)の内容をご自身の作業風景を動画で紹介しながら、そして診療放射線技師は「テクノロジーの指揮者」になれると、未来像についても御講演して頂きました。

最後にディスカッションを行いました。会場の質問や、Webのチャットにも真摯に御回答を頂きました。

懇親会は串焼き「こき」にて長野翔太先生を含む9名で行われました。

後日、世話人会にて研修会の意見交換を行いました。駆け足で進行していった感じがあり、休憩時間も短かったので、合同開催時は早めの開始で、余裕を持ったプログラムが良いのではないかと提案がありました。

次回第47回南薩地域研修会は3月7日(土)15時より日置市の前原総合医療病院にてハイブリッドで開催予定しております。多数の御参加をお待ちしております。



「鹿児島 AI 研究会発足」について
大迫俊一先生講演風景



「AI 入門」について
長野翔太先生講演風景



「AI が変える診療放射線技師の未来」について
平原大助先生講演風景



会場によるディスカッション風景
会員の質疑に答える登壇者平原先生と長野先生

第 42 回 市民健康まつり 開催報告

(公社) 鹿児島県診療放射線技師会 担当理事 脇田 慎一

令和 7 年 10 月 12 日 (日) に第 42 回市民健康まつりが西原商会アリーナにて開催されました。当日は天候にも恵まれて、開場直後から多くの市民の皆さまで賑わい、1,200 名近い来場者がありました。当会も主催団体の一員として参加し、超音波による骨密度測定、放射線相談・展示、小学生を対象にした医療従事者職業体験 (MEDkids) を行いました。

超音波による骨密度測定では、過去最高の 584 名の方の測定を行いました。若い世代からご高齢の方まで幅広い層の方々が興味を持ってくださり、毎年楽しみにしている方も多くいらっしゃいました。測定結果をお伝えする際には、「自分の状態を初めて知った」「これをきっかけに生活を見直してみたい」「無料で気軽に受けられてありがたい」といった声も多数いただき、市民の皆さまにとって価値の高い企画であることを実感しました。

小学生を対象にした医療従事者職業体験 (MEDkids) では、CT 画像から、何を写しているかを当てる「野菜当てクイズ」を実施しました。普段見慣れた野菜の CT による断面図や 3D 画像を見てご家族で盛り上がっていました。放射線技師の仕事について知っていただける機会となったと思います。

市民健康まつりは、健康について「知る」「体験する」「気づく」きっかけを提供する、地域に根ざした大切なイベントです。鹿児島県放射線技師会としても、今回のイベントを通して、市民の皆さまが自身の身体と向き合う一助となれたのであれば大変うれしく思います。

文末にはなりますが、今回から実行委員を会員から公募し、大迫会長をはじめ 15 名の有志に協力いただきました。慌ただしい中ではありましたが、多くの来場者に対して常に優しくご対応いただき改めて感謝を申し上げます。



鹿児島消化器画像・超音波研究会 合同開催報告

(第 79 回鹿児島消化器画像研究会 第 29 回鹿児島超音波研究会)

報告者①:公益社団法人鹿児島共済会南風病院 日高 稔

報告者②:霧島市立医師会医療センター 塩屋 晋吾

令和 7 年 10 月 15 日(水)、18:30~20:00、WEB 開催にて鹿児島消化器画像研究会と鹿児島超音波研究会を合同開催し、52 名の参加がありました。

●第 1 部● 消化管 X 線プログラム

消化管 X 線のプログラムは今回、胃 X 線検査の追加撮影の検討～撮影画像から必要な追加撮影を考える～会を企画しました。胃 X 線検査は、撮影中に技師が異常所見に気付いた際や、描出が不十分である場合に技師が追加撮影を実施しています。当日、各施設(鹿児島厚生連病院:恒吉技師、霧島市立医師会医療センター:橋本技師、南風病院:上川技師)に実際の画像を提示していただき、画像から必要な追加撮影を回答する形式で実施しました。当日、参加していただいた参加者と一緒に考えられ、また意見交換ができ有意義な内容となりました。

今後も初学者や未経験・ベテランの方にも興味を持ってもらえるような内容を目指していきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

●第 2 部● 超音波プログラム

今回の超音波部門は、①はじめの一步体験記、②ミニレクチャー、③症例報告の 3 部構成で企画しました。まず初めに、霧島市立医師会医療センターの大迫秀旗さんによる「ハンズオンから始める準備運動～エコー歴 0 年技師のミニ体験記～」が行われました。超音波検査を学び始めたばかりの立場から、ハンズオンセミナーへの参加体験を通じて感じたことを率直に語られました。超音波の基礎となるプローブ操作や画像の見方、そして実際に体験することで得られる気づきの大切さが伝わる内容で、「できないことが恥ずかしいのではなく、挑戦しないことこそつらい」というメッセージに、初心に戻る気持ちになりました。若手技師が次の一步を踏み出すきっかけとなるような、前向きで印象的な発表でした。

続いて、いづろ今村病院の津曲楓真さんによる「私が調べたこと聞いてください～第 5 回 憩室編～」が行われました。消化管憩室の発生機序、部位ごとの特徴、そして超音波での観察ポイントをわかりやすく整理されました。特に、急性憩室炎と鑑別を要する疾患を具体例とともに提示し、実際の画像を交えながら“どこを・どう見るか”を丁寧に解説されました。日常検査の中で見逃されがちな小さな憩室性変化に気づくヒントが散りばめられており、若手からベテランまで幅広く学べるレクチャーとなりました。

最後に、わたしの方から症例報告「オタマジャクシ事件簿」を行いました。超音波検査により球状部と管状部からなる“おたまじゃくし状”の嚢胞性腫瘍を描出し、腸重積を診断しました。手術の結果、低異型度虫垂粘液性腫瘍(LAMN)による腸重積と判明しました。腸重積の原因病変をリアルタイム超音波で捉え得た点が特徴的で、日常診療における超音波の有用性を改めて示す一例となりました。

どの発表も、現場での観察眼や探求心に基づいた内容であり、日々の診療に直結する“超音波の力”を再認識させてくれるものでした。とりわけ、若手技師による主体的な取り組みや、シリーズ講演を通して知識を積み重ねる姿勢は、鹿児島の超音波コミュニティの層の厚さを感じさせるものでした。今後も、世代を超えて学び合える会として、現場のリアルな視点を共有できる温かい研究会を継続していきたいと思っております。

第 20 回九州放射線医療技術学術大会 in 鹿児島 開催報告

今村総合病院 市来 守

第 20 回九州放射線医療技術学術大会が令和 7 年 11 月 1 日(土)および 2 日(日)、カクイックス交流センター(かごしま県民交流センター)にて開催されましたので、以下のとおり報告いたします。

1. 開催概要と参加者数

第 20 回九州放射線医療技術学術大会は、節目の大会として「Strategy～次世代医療に活かされる放射線技術学～」をテーマに掲げ、カクイックス交流センターにて開催されました。

開催当日は、翌日から開催される「おはら祭り」の活気・熱気に溢れる恵まれた条件での開催となり、参加者は、大会 2 日間で **744 名**(メーカー含め 870 名)を数え、大変盛況な学術大会となりました。

大会の運営は、大会長と実行委員長を含めた 17 名の大会実行委員と、49 名の拡大実行委員を併せた総勢 66 名の委員体制で行われました。私も受付担当として参加し、大会の円滑な進行に努めました。



↑ 第 20 回九州放射線医療技術学術大会 大会実行委員



↑ 大会受付

2. 開会式と大会プログラム

開会式は、第 1 会場(県民ホール)にて執り行われ、実行委員長の豊田雅彦さまの開会の辞に始まり、大会長の太田原美郎さまの大会長挨拶が行われました。また JART 会長の上田克彦さま、JSRT 代表理事の石田隆行さまからのご祝辞を賜りました。



豊田雅彦 実行委員長



太田原美郎 大会長



上田克彦さま



石田隆行さま

大会のプログラムは、次世代の医療に活かすための知識と技術を学び、これから向かえる社会情勢への戦略や臨床への還元を目指すというテーマに沿った企画プログラムと、166 演題の一般研究プログラムから構成されており、非常に豊富な内容となっております。

<企画プログラム>

- ・特別講演 : 生成 AI、医療 DX に関する講演に加え、患者視点の医療を考えるための「いのちの授業」の計 3 講演を実施。
- ・シンポジウム : 「次世代医療への挑戦」として 4 名のシンポジストによる講演を実施。
- ・実行委員企画 : 次世代医療を見据えた放射線治療について 3 名の先生の講演を実施。
- ・実行委員特別企画: DRLs2025 のキーポイントや、診療放射線技師の新たな業務となるワクチン筋注行為に関する実技講習会を実施。
- ・ライブセミナー : 放射線治療計画分野から「今日から始める業務効率化-Eclipse Script 入門」「診療放射線技師による運動器エコーの実際～基礎から応用まで」といった、実践的な知識と技術を学ぶ場を提供。

<一般研究プログラム>

一般研究プログラムでは、県内外問わず多くの演題を提出いただき、座長の進行の元、各会場で活発な質疑応答が行われていました。

<機器展示>

機器展示として、本大会では、36 社の出展(38 社の協賛)があり、多数の企業による機器展示ブースが設けられ、参加者は最新の医療機器や技術に触れ、情報交換を行っていました。



↑ ライブセミナー I・II の様子



↑ 各会場の様子



↑ 機器展示の様子

3. 閉会式

閉会式では、太田原大会長より閉会の挨拶があり、次回(第 21 回沖縄大会)大会長として久場匠さまよりご挨拶をいただきました。最後に、豊田実行委員長より閉会宣言がされ、2 日間の学術大会が終了となりました。



閉会式



次回大会長 久場匠 さま

4. 最後に

本学術大会の成功は、大会長と実行委員長を含めた実行委員の皆様、演題発表・座長・聴講で参加された県内会員の皆様、そして学会参加者を支援いただいた県内各施設のスタッフの皆様のご尽力があつてのことと存じます。ここに、厚く御礼申し上げます。

第 20 回九州放射線医療学術大会 in 鹿児島

実行委員特別企画Ⅱ「ワクチン筋注行為講習会」報告

大井病院 愛下 剛

2025年11月1日（土）および2日（日）、カクイックス交流センター（かごしま県民交流センター）にて開催された第20回九州放射線医療学術大会において、実行委員特別企画Ⅱ「ワクチン筋注行為講習会」を実施いたしましたので、以下のとおり報告いたします。

【開催日時・会場】

第7会場（4F 大研修室4）

- ・11月1日（土）11:50～13:00 受講者：88名
 - ・11月2日（日）12:30～14:30 受講者：72名
- 合計：160名



【1. 開催準備】

本講習会の開催にあたり、鹿児島大学病院 豊田実行委員長および相良病院 大迫会長（鹿児島県診療放射線技師会）に多大なるご尽力をいただきました。開催前には、関係スタッフによる Web 会議を複数回実施し、役割分担・動線設計・運営手順の確認を行いました。また、鹿児島大学病院看護部のご協力のもと、同院スタッフに対する事前トレーニングを実施したことで、実技対応スタッフの技能と自信を高めることができました。さらに、第1回ワクチン筋注行為講習会（福井）を受講した経験者からの注意点共有や資料配布が行われ、運営チーム全体の対応品質向上につながりました。

【2. 受付運営】

本講習会はランチョンセミナー同様の「事前予約制」とし、

- ・1日目：80名
- ・2日目：100名

の枠を準備しました。大迫会長の提案により、受付では Wi-Fi 環境下で受講者の eラーニング修了確認を行い、その後チケットを配布する方式を採用しました。この運用により会場内の混雑緩和が図られ、受講から修了証明取得までの一連の流れを円滑に進めることができました。受講者からは「講習時間はどの程度か」という質問が多く寄せられましたが、実技に要した時間は約5分程度でした。待機中に事前資料で内容確認できるようにしたことが、短時間かつスムーズな進行に寄与したと考えられます。

【3. 講習実施】

<1日目>



5セットの実技ブースを準備し対応しました。開始直後は受講希望者が集中したため一時的に待ち時間が発生しましたが、ファントム腕役スタッフと受講者との丁寧なコミュニケーション、さらに事前トレーニング済みスタッフおよび第1回受講経験者からの適切なサポートにより、全体としては滞りなく進行しました。実技終了後には、JARTマイページでの修了証発行をサポートするスタッフも配置し、受講者がその場で完了できる体制を整えました。

<2日目>

初期対応強化として10セットを準備し、待ち時間はほぼゼロで運営することができました。会場案内、ファントム腕役、ファシリテーター、修了証明サポートの各役割が適切に機能し、JARTスタッフのご指導の下、終始円滑な講習となりました。当日は、県外技師会の会長や、今後ワクチン筋注行為講習会の開催を予定している地域の関係者も視察に訪れ、他地域開催の参考にしていただける内容となりました。また、我々実行委員で作成しました、イラスト付手順書を活用しましたが、非常にわかりやすいと評価していただきました。

2023/11/01-02

ワクチン筋注実施手順

- 04 穿刺**
 - ・消毒
 - ・90度で2cm 素早く行う
- 05 穿刺直後の患者状態の確認**
 - 「針先の強い痛みはないですか？」
 - 「指先痺れはないですか？」
- 06 薬液注入**
 - 針とシリンジの固定できていますか？
 - エアの混入はないですか？
 - 薬液量は適正にシリンジ内に入っていますか？
- 07 抜針 患者状態の確認**
 - 「気分は悪くないですか？」
 - 「30分待機してからご帰宅ください」

ご不明な点はスタッフにお声がけください

第20回九州放射線技術専門学校大会鹿児島県
2023/11/01-02

ワクチン筋注実施手順

鹿児島県 太郎
昭和40年11月1日

- 01 本人確認**
 - 椅子に座っていただく
 - 「お名前・生年月日を教えてください」
 - 「ワクチン接種はしたことがありますか？」
- 02-1 安全確認(接種者に対して)**
 - 「ワクチンで気分が悪くなったことはなかったですか？」
 - 「アルコール類にアレルギーはないですか？」
- 02-2 安全確認(接種物品)**
 - 針とシリンジの固定できていますか？
 - エアの混入はないですか？
 - 薬液量は適正にシリンジ内に入っていますか？
- 03 穿刺部位の確認 腕を下ろす**
 - 洋服をめくっていただく
 - 穿刺部確認 (肘から3横指 または肘線と前後腕骨の交点)

ご不明な点はスタッフにお声がけください



【4. まとめ】

今回の鹿児島でのワクチン筋注行為講習会は、運営・内容ともに非常に充実した企画となりました。迅速かつスムーズに受講者を増やしていくことは、診療放射線技師の社会的役割強化にもつながる重要な取り組みであると考えます。

今後、鹿児島県においても講習会開催の機会が増えることが予想され、受講希望者の増加に大いに期待しています。大迫会長を中心とした鹿児島県診療放射線技師会の皆様の取り組みに貢献できるよう、引き続き連携してまいります。



ワクチン担当実行委員			
施設名	氏名	施設名	氏名
相良病院	大迫 俊一	鹿児島大学病院	豊田 雅彦
大井病院	愛下 剛	霧島市医師会医療センター	坂口 右己
鹿児島市立病院	米重 亮馬	鹿児島市立病院	木原 悠太
鹿児島市立病院	鈴木 涼馬		
鹿児島大学病院	元日田 調	鹿児島大学病院	木屋尾 祐太郎
鹿児島大学病院	丹羽 慶彰	鹿児島大学病院	林 六計
鹿児島大学病院	大塚 洋和	鹿児島大学病院	川畑 ひまり
鹿児島大学病院	鞆脇 悠汰	鹿児島大学病院	中村 春菜
ワクチン応援実行委員メンバー			
施設名	氏名	施設名	氏名
相良病院	西村 咲映	米盛病院	福留 慎也
相良病院	原口 織歌		

2025 年度鹿児島乳腺画像研究会(第 11 回) 開催報告

いまきいれ総合病院 丸尾 美由紀

2025年度鹿児島乳腺画像研究会を2025 年 11月 5日(水)18:30~20:30。鹿児島市立病院多目的ホール及び Web にて開催致しました。

多数の方に御参加頂き盛會に終えることができました。

◇研修会プログラムは以下の通りです。

日時:令和 7 年 11 月 5 日(水) 18 時 30 分~20 時 30 分

会場:鹿児島市立病院 多目的ホール及び Web 開催

18 時 25 分~18 時 30 分【開会挨拶】 鹿児島市立病院 隈 浩司

18 時 30 分~18 時 45 分【乳がん検診の全国集計紹介】 鹿児島市立病院 隈 浩司

18 時 45 分~19 時 30 分【富士フィルムのご提案する Women's Health ソリューション~INNOMUSE~】
富士フィルムメディカル株式会社 アプリケーション

19 時 30 分~20 時 30 分 【読影の基礎とカテゴリー分類】

東京都予防医学協会 放射線科 川口 祐子 先生

20 時 30 分~【閉会の挨拶】

隈代表からは、「乳がん検診の全国集計」の登録の御協力のお願がありました。乳がん検診学会の HP から登録できるそうです。鹿児島県は3施設登録されているそうです。検診を行うだけでなく結果をフィードバックすることの大切さも言われていました。他の施設でも登録をお願いします。

富士フィルムメディカルの3名の方に最新情報(超音波装置、MRI、マンモグラフィ)のお話をして頂きました。

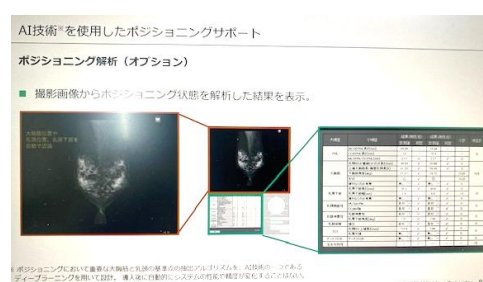
特に印象深かったのは、1.5T ECHELON Synergy ZeroHelium と ECHELON Smart ZeroHelium のお話があり、マンモグラフィ装置「AMULET SOPHINITY」の紹介がありました。ポジショニング解析(オプション)があり撮影画像からポジショニング状態を解析した結果を表示してくれます。

講演「読影の基礎とカテゴリー分類」というテーマで川口先生が「FAD の考え方を学ぼう」という内容をお話され、FAD は普段悩むことが多いので、とても勉強になりました。

FAD はポジショニングで作ってしまうこともあるため、きちんと乳腺を広げて撮影することが大切ということを改めて実感しました。乳房を圧迫板でグイグイと押ししても乳腺は広がらないので、撮影者の手できちんと乳腺を広げることが大事。また検診で過去画像がある際は、過去画像を見ることも役立つと言われていました。

今回の講演で FAD の考え方、ポジショニングの大切さを学び、明日からの検査に役立つ内容でした。

御参加頂いた皆様、ありがとうございました。次回、開催も御参加よろしくお願います。



令和7年度 鹿児島市夜間急病センター第1回勤務者研修会

開催報告

担当理事 脇田 慎一

令和7年11月20日（木）19：25より令和7年度鹿児島市夜間急病センター（以下「当センター」という。）第1回勤務者研修会を対面形式で開催いたしました。参加者は、28名でした（23名が当センター勤務者）。

当センターは、鹿児島市医師会より公益社団法人鹿児島県診療放射線技師会が業務委託を受けて運営に協力しており、勤務者には年3回の研修会参加を義務付けております。

今回は、社会医療法人緑泉会米盛病院 整形外科 田中雄基先生を講師にお招きし、当センターで撮影の多い上肢の撮影について講演いただきました。座長は同施設の伊藤大助技師をお願いいたしました。

講演では鎖骨から肩関節、肘関節、手関節、手指の部位の解剖と病変の臨床画像を提示いただき、診断に必要な画像、診断に強い画像について説明いただきました。

疼痛の強い患者さんの撮影では、部分的な屈曲、伸展で迅速に撮影し、医師が必要な情報を速やかに提供することが重要と話されておりました。

講演後には当センター勤務者で連絡調整会議を行いました。



令和7年度鹿児島県診療放射線技師会秋季学術大会

霧島始良地域研修会報告

霧島始良地域理事 坂口 右己

令和7年11月22日(土)に令和7年度鹿児島県診療放射線技師会秋季学術大会ならびに霧島始良地域研修会を霧島市立医師会医療センター2階講堂(現地)とWEBのハイブリッドにて開催しました。参加総数は53名(会員のみ53名:現地36名 WEB17名)でした。多数のご参加ありがとうございました。大迫俊一会長より挨拶を頂き、幕が開けました。

【会長挨拶】 鹿児島県診療放射線技師会会長 大迫 俊一様



【会員発表】 座長 青雲会病院 中村空也様

①CT位置決め画像によるX線防護衣の定期点検について

大井病院 副島恭平様

CT位置決め画像を用いた防護衣管理という技師ならではの視点で、破損や防護率低下を効率的に把握できる有用な報告でした。

②十二指腸潰瘍穿孔におけるガス漏出を超音波で描出し得た一例

霧島医療センター 池田 隆太様

超音波の特性を活かし、時間外対応にも関わらず迅速に診断へ至った貴重な症例でした。

③心エコーで腎機能低下群と正常群の右心機能評価と腎血流波形の関連性について

霧島整形外科 松永 大和様

専門性の高い研究で、新たな視点から機能評価の関連性を探った大変興味深い発表でした。

④大腿骨近位骨折術前3D画像作成におけるマクロ処理の有用性の検討 霧島医療センター 二渡 智英様

多忙な現場で再現性のある3D画像を迅速に提供するための手法として、技師間の技量統一にも有用な内容でした。

⑤診療放射線技師 損害賠償責任保険の申請の経験

南風病院 藤崎 誠様

MRI室への補聴器持ち込み事故における保険適用の実例で、書類準備の重要性を示す貴重な報告でした。

【情報提供①】 座長 霧島医療センター 佐々木 崇様

九州初上陸！ SIEMENS ヘリウムフリーMRI「MAGNETOM Flow Plus」更新報告 ～初期使用経験と、

撤去時吸着実験・クエンチ動画を公開！

七徳会 大井病院 愛下 剛様

撤去時の吸着実験やクエンチの様子、新装置の特徴を動画と症例を交えて紹介いただき、ヘリウムフリーMRIの先進性を実感できる内容でした。

【情報提供②】

当院 PET 室の紹介 ～ 装置導入から初期運用報告 ～

霧島医療センター 海老原 敦様

地域初導入となるGE社製オムニレジェンドPETの特徴や運用体制が紹介され、地域医療への大きな貢献を感じる報告でした。

【研修会風景】



【特別講演】 座長 霧島医療センター 坂口 右己

『緊急出血性疾患の画像評価』 霧島市立医師会医療センター 放射線科 藤崎 陽介 先生

本研修会のメインとして、藤崎陽介先生より「緊急出血性疾患の画像評価」についてご講演いただきました。体幹部の出血性疾患症例を中心に、CT 読影の際に留意すべき点、IVR 前後で技師が担うべき役割について、実際の症例動画を交えながら分かりやすく解説していただきました。CT 評価では、受傷機転・既往・皮下血腫などの基本情報と、階調調整・CT 値測定、MPR/MIP/VR の総合的な確認が重要であること、また extravasation と仮性動脈瘤の鑑別、MALS や SAM など稀な病態についても紹介され、緊急症例における幅広い知識の必要性が示されました。IVR 前には出血部位・量、血管走行や破格の把握が重要であり、技師が作成する VR・MIP 画像が治療計画に大きく貢献しているとお話がありました。IVR 中には、血管径の測定、血管分岐の角度把握、手技が難航した際の画像的提案、被ばくや手技時間の共有など、現場で技師が果たす役割について具体的な助言をいただきました。短時間でありながら実践的で密度の高い内容で、参加者にとって大変有益な講演となりました。

【閉会挨拶】 大井病院 副島恭平様

最後に、大井病院の副島恭平様より閉会のご挨拶をいただき、本研修会の意義をあらためて確認しつつ、次回に向けての期待が高まる形で締めくくることができました。大きな映像・音声トラブルもなく、盛況な研修会だったと思います。本研修会に関わってくださったすべての皆様に深く御礼申し上げます。

CT 位置決め画像による X 線防護衣の定期点検について

医療法人七徳会大井病院 副島 恭平

【背景】

2000年4月に放射線防護分科会より、「診断用 X 線防護衣管理に関する指針」が掲示され、現在においても、診断用 X 線防護衣（以下、防護衣）使用時の防護能力維持管理のため、適正な使用と保管および品質管理の重要性は増すばかりである。

一方、2019年当時の当院では、不定期に一部の防護衣を X 線透視装置で確認する事はあったものの、当院保有の全防護衣に対する定期的な点検および点検結果の記録は行われていないのが現状であった。防護衣の管理は、放射線業務従事者に対する重要な被ばく管理であると認識し、2020年より当院保有の全防護衣に対して、X 線 CT 装置の位置決め画像を用いた定期点検を開始した。

【目的】

今回は、当院保有の防護衣に対する X 線 CT 装置の位置決め画像を用いた定期点検の手順や結果等、一連の取り組みについて報告する。

【使用機器】

点検には富士フイルム社製 X 線 CT 装置 SCENARIO View を使用し、撮影条件は管電圧 120kV、管電流 25mA、スキャンの長さは防護衣によって適宜変更した。

CT による防護衣点検の特徴 (Fig.1) としては、以下のような事項が挙げられる。

- ①位置決め画像を用いることで防護衣全体を 1 枚の画像として撮影できる
- ②防護衣 1 枚あたりの点検時間が短い
- ③破損が無くとも全体画像を PACS に保存するため、経年変化の把握が可能
- ④スキャンの長さを破損部位に絞って短くする事で、より拡大して観察する事も可能



CTによる点検

- 破損部位の観察は可能
- 全体像の把握可能
- 点検時間の短縮
- 経年変化の把握可能

Fig.1 CT による防護衣点検の特徴

【方法】

方法 1：防護衣点検表の作成

事前準備として、Excel にて当院保有の全 37 枚の防護衣の設置場所、防護衣名、防護衣タイプ、製造業者、製造年月日、製造番号、表示鉛当量を記載した防護衣点検表 (Fig.2) の作成を行った。

方法2：点検用CTプロトコル作成

次に、防護衣点検用CTプロトコル (Fig.3) の作成を行った。プロトコル内のスキャン名と各防護衣に割り振った名称を統一し、各スキャンの長さも各防護衣の長さとして統一する事で、できるだけ点検時間の短縮になるように準備している。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	X線防護衣定期点検表							
2								
3	設置場所	スキャン名	タイプ	製造業者	製造年月日	製造番号	表示相当量 (mSv)	点検技師
4		X-p1	前	株式会社	2017/03	1702100911	0.25	
5		X-p2	スカート	株式会社	2013/12	1312100250	0.25	
6	一般撮影室	X-p3	スカート	株式会社	2017/03	1703100912	0.25	
7		X-p4	シート	不明	不明	不明	不明	
8	CT室	CT1	シート	株式会社	2002/02	421	0.25	
9		single1	ガラス	株式会社		1408100214	0.05	
10		RF1	前	株式会社	2000/01	230	0.25	
11		RF2	前	株式会社	2017/02	1702101207	0.25	
12		RF3	前後	株式会社	2013/12	1312100248	0.05	
13		RF4	前	不明	不明	不明	不明	
14		RF5	前後	株式会社	不明	不明	0.05	
15		RF6	前後	株式会社	2005/06	506100656	0.05	
16		RF7	前後	株式会社	2005/06	506100655	0.05	
17	透視室	Neck1	ネック	株式会社	2009/01	1880100809	0.25	

Fig.2 防護衣点検表作成

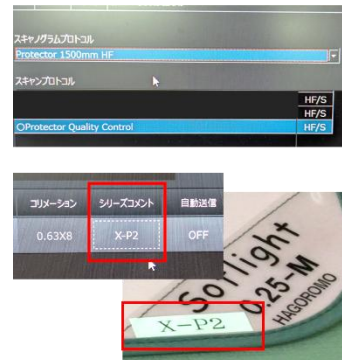


Fig.3 点検用CTプロトコル作成

方法3：点検マニュアルの作成

そして、次回も点検内容を統一するために防護衣点検マニュアル (Fig.4) の作成を行った。CT装置寝台への防護衣設置方法やスキャンの手順、破損の記録などについて記載している。



Fig.4 点検マニュアル作成

方法4：防護衣点検の実施

これらの事前準備を整えたうえで、点検マニュアル記載通りに防護衣をCT寝台に設置し、スキャン、出力された画像を確認し、また次の防護衣を設置するという手順を繰り返していく。

【結果】

全37枚の防護衣中3枚、全体の8%に何らかの破損が見つかった。(Fig.5) なかでも、今回は破損が特に目立つ2つについて報告する。

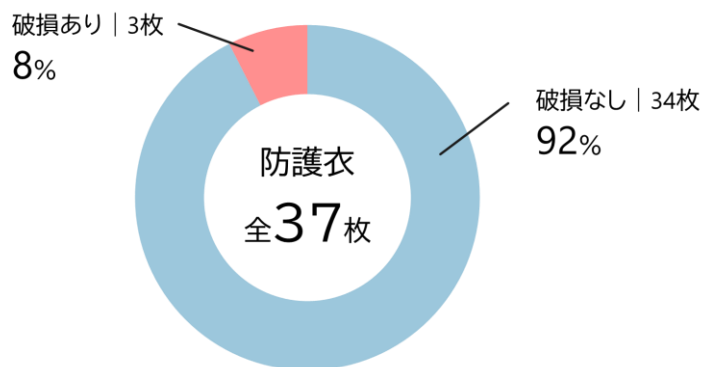


Fig.5 防護衣点検結果

結果 1

1 つ目の防護衣は製造年月日が比較的新しいものであるが、色が目立つこともあり、1 番使用頻度が高い。紙面上ではわかりにくいかもしれないが、下腹部付近に 1.5 cm ほどの亀裂が薄く入っている。この年は印をつけて経過観察としたが、翌年の点検時には亀裂が剥がれ落ち、破損の進行が確認できた。(Fig.6)

結果 2

2 つ目の防護衣は製造からかなり経過し、透視室で長年使用されてきたものである。見た目はきれいだが、点検してみると正中縦に曲がり皺が付き、皺に沿って大きな亀裂の発生を認める。(Fig.7)

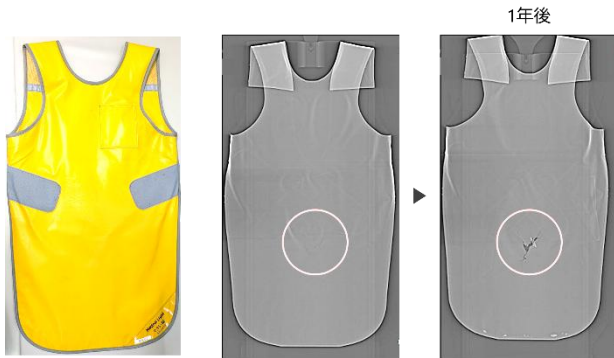


Fig.6 結果 1 の防護衣の破損と翌年の進行

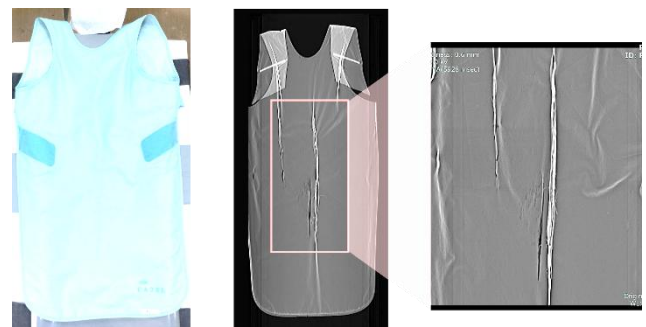


Fig.7 結果 2 の防護衣の破損

【考察】

上記 2 つの防護衣の破損原因について考察する。

結果 1 の防護衣は、ポータブル、CT、透視等様々な場面で使用頻度が高く、使用時の歩行や中腰など業務動作による負荷に加え、一次的に脱いだ時に椅子に置かれ、折れ曲がりが生じている場面を見かける事がある。負荷が下腹部あたりに集中することで、破損に繋がったと考える。(Fig.8)

結果 2 の防護衣は、使用した他部署スタッフにより、透視検査終了後、検査室前の椅子に折りたたんで置いてある事例が多数あった。同じ位置での縦折りを繰り返し、折り目に沿った破損に繋がったと考える。(Fig.9)

以上のように、防護衣の破損は経年劣化よりも、使用環境や間違った保管状態の影響が大きい。また、防護衣は様々な職種のスタッフが使用する。CT 位置決め画像による点検は、破損部位の位置関係や形状の把握が容易であり、破損原因を考察し、関係部署への教育ツールとしても、わかりやすく有用であると考えられる。

【結論】

X 線防護衣の定期点検に X 線 CT の位置決め画像を用いることで、簡便で効率よく点検を行うことができた。



Fig.8 結果 1 の防護衣破損原因



Fig.9 結果 2 の防護衣破損原因

十二指腸潰瘍穿孔におけるガス漏出を超音波で描出し得た一例

霧島市立医師会医療センター 池田 隆太

症例

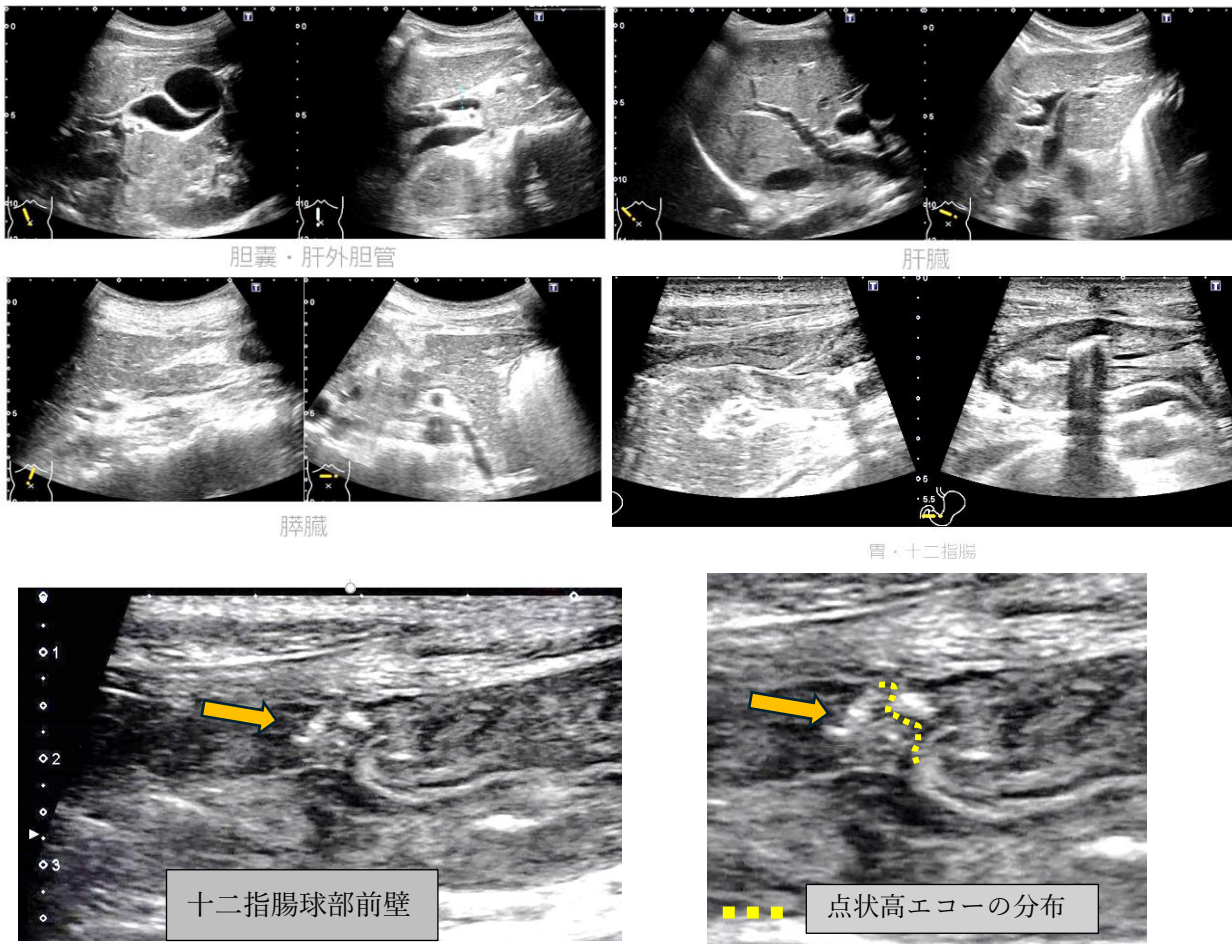
- 【患者】 30歳 女性
- 【主訴】 上腹部痛
- 【既往歴】 子宮筋腫
- 【現病歴】 朝から持続する上腹部痛を主訴に当院夜間救急センターを受診した。

WBC	148	$\times 10^3/\mu\text{L}$	CPK	81	U/L
RBC	297	$10^4/\mu\text{L}$	LDH	141	IU/L
Hb	8.8	g/dL	TP	7	g/dL
Hct	26.6	%			
Plt	33.7	$10^4/\mu\text{L}$	Cr	0.89	mg/dL
T-bil	0.7	mg/dL	Alb	4.1	g/dL
D-bil	0.2	mg/dL			
AST	13	IU/L	CRP	4.79	mg/dL
ALT	6	IU/L			
AMY	112	U/L	D-dimer	2.9	$\mu\text{g}/\text{mL}$

血液検査では、白血球数・CRP・D-dimerの上昇に加え赤血球数の低下を認めた。

【US 所見】

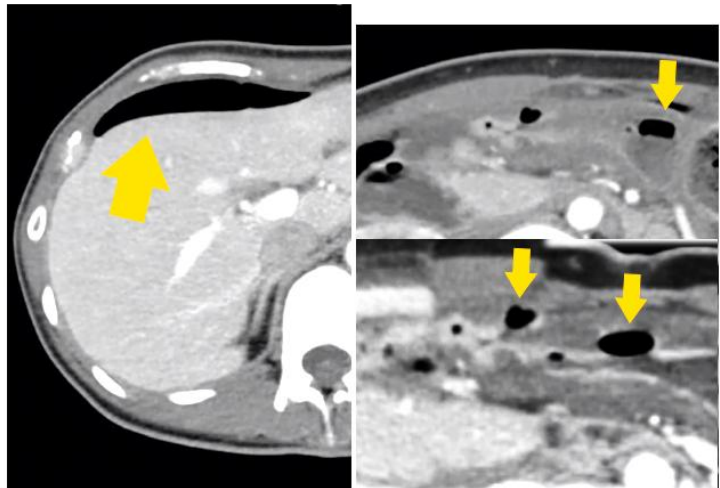
USでは急性腹症を代表とする急性胆嚢炎・急性膵炎・尿管結石・急性虫垂炎を示唆する異常所見は指摘できなかった。異常所見としては、胃前庭部から十二指腸にかけての著大な壁肥厚と複数の潰瘍を認めた。十二指腸球部前壁側の潰瘍において、潰瘍を貫通し壁外へとガスが流出する様子を点状高エコーとしてリアルタイムに描出し、穿孔を強く疑った。



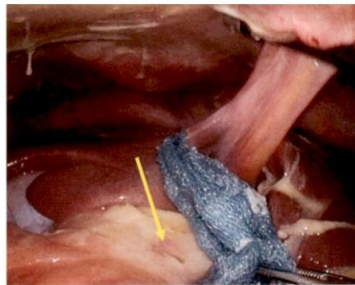
CT では上腹優位の Free air と胃前庭部・十二指腸に複数の潰瘍を認めた。穿孔部位の同定は困難であり、鑑別は上部消化管穿孔疑いであった。

最終診断では十二指腸潰瘍穿孔と診断され緊急手術となった。時間系列としては 23 時 10 分頃に US を施行し 24 時前には診断そして緊急手術へと直結することができた症例である。

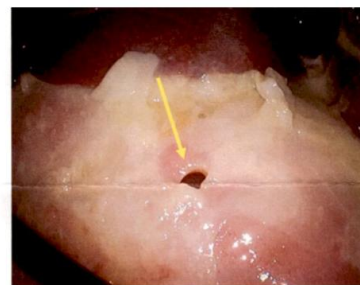
手術所見では US で指摘した十二指腸球部前壁側に穿孔部を認め、大網充填術を施行し経過良好となった。



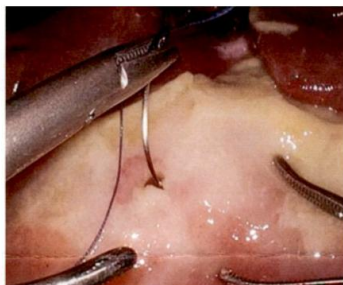
手術所見



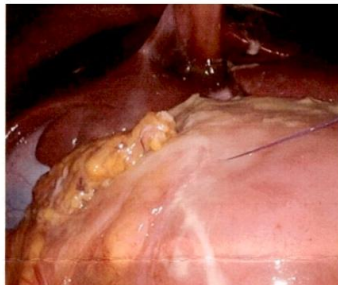
十二指腸・球部を中心に上部に大量の膿性白苔が付着



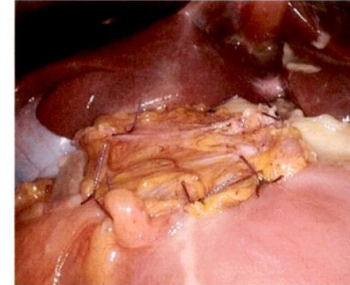
十二指腸・球部 前壁に穿孔部



穿孔部から針を口側に刺入



牽引して穿孔部に大網を充填

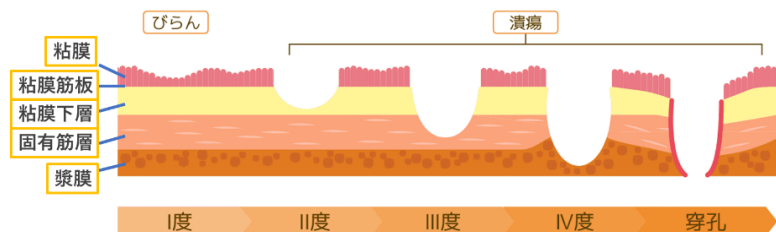


牽引しながら潰瘍部を大網で覆うように8針固定 (1針は牽引糸とも結紮)

【考察 (潰瘍の成因や機序について)】

潰瘍とは、粘膜の深部まで損傷が及び、組織欠損を生じる病態である。浅い傷で上皮(粘膜層)に損傷が留まる状態 = 「びらん」 粘膜筋板より深層に損傷が及んでいる状態 = 「潰瘍」とされている¹⁾。好発部位は胃では小弯部、十二指腸では球部前壁側である²⁾。

原因因子としては、身体および心理的ストレス・喫煙・Helicobacter pylori (H. pylori) 感染・薬剤服用 (NSAIDs, ステロイド) などが挙げられる³⁾。十二指腸潰瘍は胃潰瘍に比べ、およそ 6 倍の割合で穿孔を合併しやすいとも言われており穿孔を起こした場合は、消化液や内容物の漏出が原因である穿孔性腹膜炎を発症する可能性もあるため注意して画像確認をする必要がある⁴⁾。



また、十二指腸潰瘍穿孔率6倍については

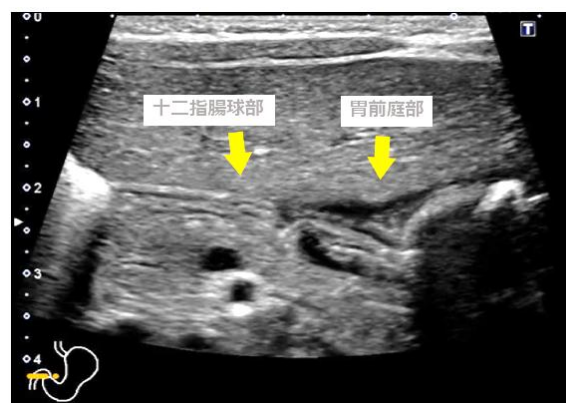
『壁が比較的薄く、漿膜に覆われている部分が多い』

『胃酸の直接的な影響を受けやすい』

『血流が相対的に乏しく、潰瘍が治癒しにくい』

といった3つが関係していると言われている⁵⁾。

本症例では、精神的ストレスを抱え十分な食事ができず他院に通院をしていたこと、そして穿孔する1ヶ月前には内視鏡検査にて胃前庭部と十二指腸の



潰瘍を認めていたこと、薬剤性潰瘍を示唆するNSAIDsやステロイドの服薬歴は認めなかったことから慢性的ストレスによって潰瘍穿孔を起こしたのではないかと推測した。

【まとめ】

本症例では、CTで穿孔部位の特定が困難であったが、USにより十二指腸球部前壁からのガス漏出をリアルタイムに描出し、穿孔の診断に直結した。USの即時性と描出能の高さが、緊急手術への迅速な判断に大きく寄与したと考えられる。また、潰瘍の成因や穿孔の機序について再認識する貴重な機会となった。今後もUSの特性を活かし、診療に寄与できるよう努めていきたい。

【参考文献】

- 1) 医学書院「胃と腸」57巻5号 2022年
- 2) 萩原ら 日本内科学会雑誌 第84巻 第6書・平成7年
- 3) 西田ら 臨外 第71巻 第11号・2016年 増刊号
- 4) 京大学医学部第2外科教室：急性腹症. 外科診療
- 5) 浦ら 日本臨床外科医学会雑誌 第38回 第6号

大腿骨近位骨折術前 3D 画像作成におけるマクロ処理の 有用性の初期検討

霧島市立医師会医療センター 二渡智英

【目的】

大腿骨近位骨折症例の術前計画において、3D - CT による骨折の程度や形状把握が有用である。当院でも整形外科より指定された術前 3D 画像の作成項目がある。しかし、CT 検査数の増加や時間外での撮影、人員不足などにより、処理に十分な時間が確保できていない現状があり、術前 3D 画像の不足が発生している。そこで、画像解析ソフト：FUJIFILM 社 SYNAPSE VINCENT ver.6.7 に搭載されているマクロ処理機能を活用し、処理時間の短縮、画像不足の解消を試みたので、マクロ処理の有用性の初期検討として報告する。

【検討内容】

検討①：2025 年 5 月～2025 年 11 月に撮影された大腿骨近位骨折の 10 症例に対し、技師 9 名で術前 3D 画像の作成を行った。対象技師の詳細は、Fig.1 に示す。CT 業務項目に関しては、半年間で CT の業務に従事した日数である。作成方法は、従来法とマクロ処理で処理した作成方法（以下、マクロ処理法）で行い、両作成方法の処理時間を計測し比較を行った。そして、作成した画像に不足がないか確認を行った。

検討②：半年間で CT 業務を行った日数が最も多く、経験年数が一番長い技師（A）を基準とし、その他の技師（B～I）で作成時間を比較し、差がないかを検討した。

技師	A	B	C	D	E	F	G	H	I
経験年数	30年	23年	19年	13年	8年	5年	2年	1年	1年
CT業務	80日	1日	5日	7日	62日	26日	29日	46日	44日

Fig.1 対象技師

【作成手順】

従来法の大腿骨近位骨折の画像処理手順は、骨抽出や股関節抽出で骨盤と大腿骨頭を分離し、カット等の処理でパーツを作成していく。作成後はパーツの組み合わせ、方向選択、キャプチャー、画像名を記入して保存する手順を手動で繰り返す。マクロ処理法は、股関節抽出で骨盤と大腿骨頭を分離する手順は従来法と同様だが、その他の操作はマクロによる自動処理で、パーツの選択、骨透過、回転方向の変更、保存を行っていく。（Fig.2）

従来法	マクロ処理法
1. 対象骨（股関節～大腿骨）の抽出	I. 対象骨（股関節～膝）の抽出
2. 骨盤の傾き調整	II. 骨盤の傾き調整
3. 大腿骨をカット	III. マクロ処理を実行
4. 股関節抽出（骨盤と大腿骨頭の分離）	IV. 股関節抽出（骨盤と大腿骨頭の分離）
5. 分離したパーツを表示で組み合わせ	V. 大腿骨をカット
6. 方向選択（横回し）	VI. マクロの実行（自動で5～11を実行）
7. キャプチャー保存	
8. 方向選択（縦回し）	
9. キャプチャー保存	
10. 画像名入力	
11. 保存	
12. 5～11を繰り返し、画像作成	

Fig.2 従来法とマクロ処理法の手順

【当院の作成画像リスト】

- ① MPR3 方向
- ② VR：股関節～膝まで 72 枚（縦横回し）
- ③ VR：股関節 72 枚（縦横回し）
- ④ VR：股関節 骨頭抜き 72 枚（縦横回し）
- ⑤ VR：股関節 36 枚（横回し）
- ⑥ VR：股関節 骨頭抜き 36 枚（横回し）
- ⑦ VR：患足骨頭+骨透過 72 枚（縦横回し）
- ⑧ VR：患足骨頭のみ 72 枚（縦横回し）

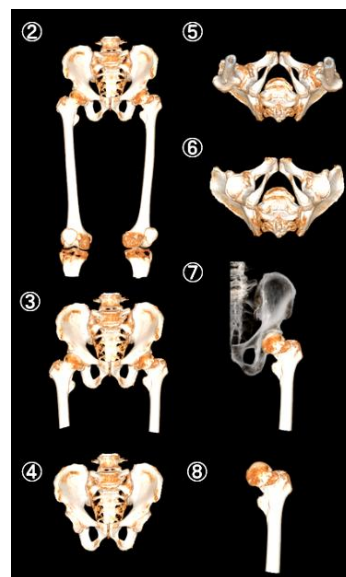


Fig.3 当院の画像作成リスト

【結果】

検討①：従来法とマクロ処理の時間比較では、全ての技師で有意差 ($p < 0.05$) をもって低値となった (Fig4、Fig.5)。また、従来法では、画像不足 (画像抜け、保存枚数不足) が 4 名の技師に見られたが、マクロ処理法では画像不足は見られなかった (Fig.6)。

検討②：マクロ処理法による技師間の比較では、基準技師 A に対し、3 名の技師で有意差が出た。(Fig.7)

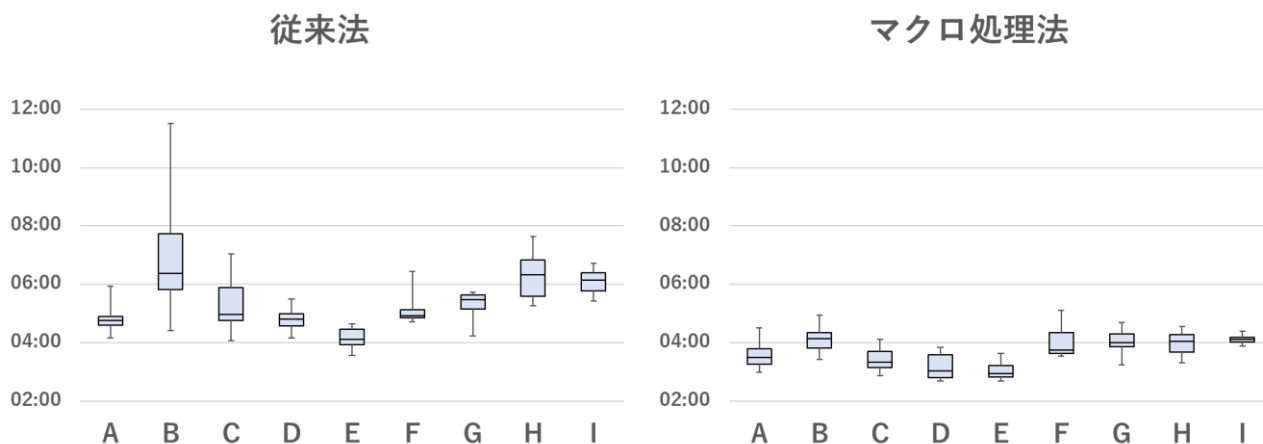


Fig.4 従来法とマクロ処理の時間比較

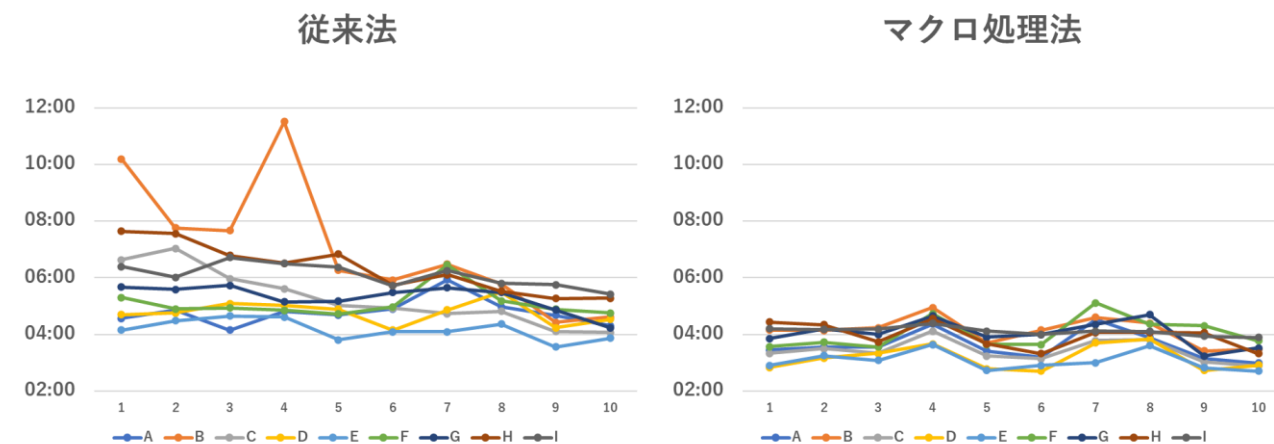


Fig.5 各症例の処理に要した時間比較

従来法での各技師間の画像不足評価

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
経験年数	30年	23年	19年	13年	8年	5年	2年	1年	1年
業務日数	80日	1日	5日	7日	62日	26日	29日	46日	44日
症例：1	○	○	○	○	○	○	○	×	×
症例：2	○	○	○	○	○	○	○	○	×
症例：3	○	○	○	○	○	○	○	○	○
症例：4	○	○	○	○	○	○	○	○	○
症例：5	○	○	○	○	○	○	○	○	×
症例：6	○	○	○	×	○	○	○	○	○
症例：7	○	○	○	×	○	○	○	○	○
症例：8	○	○	○	○	○	○	○	○	○
症例：9	○	○	○	○	○	○	○	○	○
症例：10	○	○	○	○	○	○	○	○	○

Fig.6 従来法における画像の不足評価

【考察】

マクロ処理法は従来法と比べ、すべての技師で有意差 ($p < 0.05$) をもって処理時間が短縮された。抽出処理は従来法と変わらないが、画像の選択の省略、骨透過・方向変更の自動化、画像名の記入省略が理由であると考えられる。また、マクロ処理法は手順に従った処理であるため、作成画像の不足は見られなかったが、従来法で不足が見られた。要因として、回転方向や画像選択を手動で行うこと、処理・手順の統一化ができていないためである考えられる。

マクロ処理法での処理時間の比較において、基準技師 A と比較し 3 名 (B、E、I) で有意差が出た。技師 E ($p = 0.018$) で有意差が出た理由は、技師 E が、マクロ処理法を設定した技師であるため、マクロ処理法への習熟が影響していた可能性が考えられる。技師 B ($p = 0.0326$)、技師 I ($p = 0.0075$) に有意差が出た理由は、平均 30 秒以上作成時間が長く、業務日数 (B : 1 日)、経験年数 (I : 1 年) が要因である可能性がある。しかし、技師 B、技師 I における作成時間の回帰曲線では、B の傾き : -3.98 秒、I の傾き : -2.12 秒と、どちらも傾きが負であり、減少傾向が見られ、処理経験の蓄積により、時間の短縮が進む可能性がある。

マクロ処理法に要した各技師の平均時間

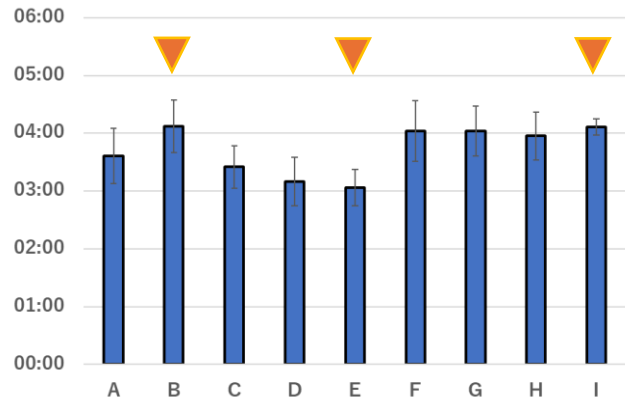


Fig.7 マクロ処理法における技師間の比較

技師B・技師Iの画像作成時間推移

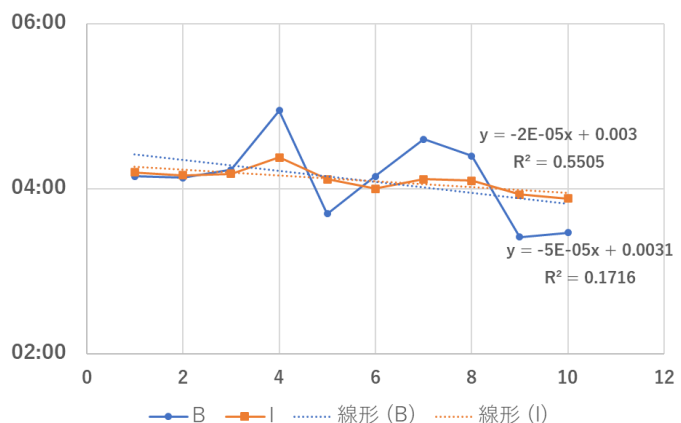


Fig.8 マクロ処理法での技師 B、I の
画像作成時間推移

【結語】

マクロ処理法を利用することで、従来法と比較し、作成時間の短縮が可能であり、経験年数、CT 業務の頻度が少ない技師でも同等の画像処理が行える。またマクロ処理は、手順に沿った処理であるため、画像の統一性、作成漏れの防止が図れる。

マクロ処理法の処理時間に関しては、業務日数、経験年数、習熟度が要因であると考えられるが、処理経験の蓄積により、処理時間はさらに短縮できる可能性も示唆された。

診療放射線技師 損害賠償責任保険の申請の経験

鹿児島共済会 南風病院 放射線技術科 藤崎 誠

【背景】

昨今、診療放射線技師による静脈路確保などの業務拡大や各検査時の安全確認の複雑化、多様化にともなうインシデントが報告されるようになり、我々診療放射線技師も損害賠償責任保険（以下、保険）への加入が勧められている。

今回、MRI 検査時の補聴器持ち込み事例で保険の申請を経験したので報告する。

【事例の経緯】

患者は 90 代女性で大腿骨頸部骨折疑い、予約外の MRI 検査で MRI 対応ペースメーカーを埋め込んでいるとの連絡であった。問診票はペースメーカー以外の特記事項無し。全身の目視及び金属探知機での確認をすませ、ペースメーカーを MRI モードに変更後股関節 MRI を施行した。終了後、ヘッドフォンを外したところで補聴器を発見する。

患者家族に経緯を説明し、壊れているようでしたら病院へ連絡をして下さいと説明し、院長（主治医）、安全管理室、技師長へそれぞれ報告した。

後日、補聴器が壊れていたと病院へ連絡があり、病院から技師長を通じて保険に加入していればそちらを申請するようとの指示があり、申請するに至った。

【JART ホームページより 手続きについて】



【申請方法】

◎『損害賠償責任保険制度のご案内』から『問い合わせ先はこちら』へメールをする。



◎保険代理店から申請の方法と注意事項の案内がメールで来る。

- 必要書類
1. 事故報告書（メールに記載された URL から PDF ファイルをダウンロードして印刷。）
 2. 破損物の写真（FAX では不鮮明なので PDF に変換もしくは郵送の指示。）
 3. 見積書（修理不能な場合は修理不能証明書まで。購入年月日がわかる書類も必要。）

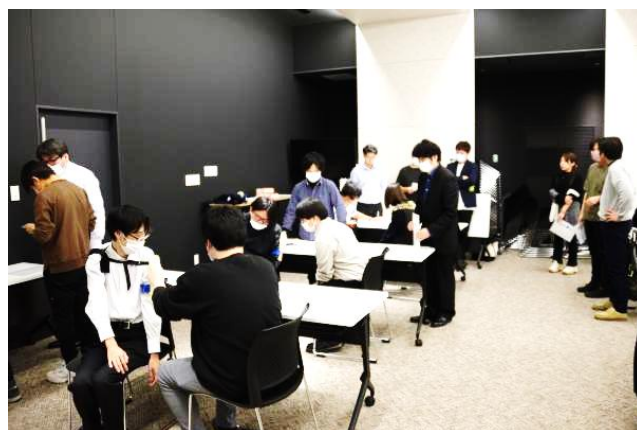
上記書類をメールに添付する。

令和7年度鹿児島県診療放射線技師会 ワクチン筋注行為講習会 in 霧島始良地域 報告

霧島始良地域理事 坂口 右己

令和7年11月22日(土) (16:30~17:10)に令和7年度鹿児島県診療放射線技師会ワクチン筋注行為講習会 in 霧島始良地域を 霧島市立医師会医療センター2階講堂(現地開催のみ)にて開催しました。参加総数は 20名(会員のみ)でした。

- ・ ファシリテータ (3名)
大井病院 副島 恭平様
霧島医療センター 福元 健様
霧島医療センター 高崎 隆太様
- ・ 他補助スタッフ (5名)



受講者は1名あたり約4~5分をかけ、ファシリテータ立ち会いのもと3回の実技を行いました。受付ではeラーニング修了状況の確認、整理券およびイラスト付き手順書の配布を実施し、会場では整理券順に3名ずつ実技が進行しました。

さらに、実技終了後にはJARTマイページでの修了証発行をサポートするスタッフを配置し、受講者がその場で手続きを完了できる体制を構築しました。これにより、受講から修了証取得までの一連の流れをスムーズに行うことができました。

今年度、県内では各地域で2回のワクチン筋注行為講習会開催が予定されており、霧島始良地域として初の開催となった今回の講習会は、今後に向けた貴重な経験となりました。

引き続き、鹿児島県診療放射線技師会の取り組みに貢献できるよう、地域としてもより良い研修体制の構築に努めてまいります。

令和7年度 放射線管理士部会研修会 開催報告

放射線管理士部会 東 幸浩

令和7年12月6日（土）令和7年度鹿児島県放射線管理士部会研究会を開催いたしました。
今回、環境省が主催する放射線の健康影響・遺伝影響や福島の今に関する情報をアップデートしともに考えていく活動である「ぐるぐるプロジェクト」の一環としてラジエーションカレッジセミナーを鹿児島県で開催いたしました。当日の参加者は、現地参加13名、Web参加7名の計20名でした。内容として、東京電力福島第一原子力発電所事故に関連する放射線の健康影響に関して正しく理解している人を増やし誤解から生じる差別・偏見をなくすことを目指す「ぐるぐるプロジェクト」の取り組みについての紹介、講演①福島原発事故を振り返り放射線の健康影響と遺伝的影響について県民健康調査結果や国際機関の見解について、講演②福島第一原子力発電所で作業員として従事し、その経験をもとにした漫画「いちえふ」について、不可欠な要素と言える歌も含めてご講演をいただきました。

日時：2025年12月6日（土）16:00～18:30

場所：相良病院11階 はくあいホール（ハイブリッド開催）

内容：16:00～16:05 開会

16:05～16:10 ぐるぐるプロジェクトの紹介

16:10～16:50 講演①「放射線の健康影響と遺伝的影響」

東京医療保健大学 小野 孝二 先生

16:50～17:00 休憩

17:00～18:15 講演②「いちえふ - 作業員として過ごした日常と廃炉作業の現実 -」

漫画家 竜田 一人 先生

18:15～18:25 質疑応答・アンケート

18:25～18:30 閉会



令和7年度 第3回 告示研修 開催報告

学術担当 藤崎 誠

令和7年度 第3回告示研修が12月7日（日）に鹿児島医療技術専門学校 平川校 1号館5階多目的ホールおよび1号館4階 臨床実習室で開催された。

参加者は33名であった。（会員19名、非会員14名）

講師2名 脇田慎一（いづろ今村病院 診療放射線技師）、有村智美（いづろ今村病院 看護師）

ファシリテータ5名（木場 淳、池田 真一、東 幸浩、元日田 調、福留 慎也）スタッフ2名で行なった。

午前中はDVD視聴で法令改正について、法令改正に伴う業務拡大の各論等について学んだ。

午後より静脈穿刺実技、CTおよびMRI、超音波その他の造影検査手技実技、核医学検査手技実技、動脈路に造影剤注入装置を接続する行為と血管造影時の清潔操作一連の実技、下部消化管検査で注入した造影剤及び空気を吸引する行為の実技、上部消化管検査のために挿入した鼻腔カテーテルから造影剤を注入する行為および鼻腔カテーテルを抜去する行為の実技の6ブロックを6つの班に分かれ、それぞれを約1時間にわたり実技研修を行なった。

早朝からのDVD視聴であったが参加者は真剣に視聴しメモをとる姿も見られた。

午後からの実技研修において参加者は皆、真剣に実習を受けており質問等をする様子も多く見られた。朝から終日の長時間にわたる研修会であったにも関わらず集中力も途切れることなく受講されていた。

今後は各施設にて実際にこれらの業務を行なっていくものと期待される。

約5年にわたり本研修を行ってきたが、当県単独開催は今回が最後となった。



DVD 視聴風景



静脈路確保実技風景



上部消化管実技風景



下部消化管実技風景



血管造影検査実技風景

【ニュース】

第15回南薩地区放射線技師スポーツ交流大会「下園杯」

終了報告

南薩地域 野中 康博（菊野病院）



コロナ禍により昨年度 6 年ぶりに再開したスポーツ交流大会「下園杯」が今年も秋空の下で盛大に開催され、無事終了しましたので報告します。今年は総勢 37 名の参加があり（メーカー、地域の方々、家族の応援隊など含む）3 チーム編成で臨みました。運営予算が難航し、今回初めて弁当の配布を見合わせ（その分 参加費を 1,000 円から 500 円へ）閉会式・表彰式を以て解散となりました。秋の風物詩でもある南薩のイベント、次回へ繋げたいと思います。参加および応援協力頂いた方々へ感謝します。

【目的】

南薩地区所属の診療放射線技師が他地区、他団体とスポーツやレクレーションを通じて交流、健康増進、親睦を深める。

【日程】

- ▶開催日：令和 07 年 11 月 24 日（月祝）
- ▶時 間：9 時～13 時
- ▶会 場：加世田運動公園多目的グラウンド
- ▶種 目：ソフトボール競技（レクレーション）
- ▶会 費：500 円（会場使用料、飲み物、スポーツ保険加入、賞品 等に使用）
- ▶参加数：37 名（グラウンドに集まった総数、うち競技者 31 名）
- ▶対象者：放射線技師（家族含む）、医療従事者、メーカー、学生（3 年生以下）、メーカー

【ルール】

- ▶県民体育大会ソフトボール競技女子スローピッチルールに準じる。
 - ・試合は 5 回または 40 分を過ぎて新しいイニングに入らない。
 - ・投手は打者に対して打ちやすいボールを投げる。守備は 10 名（外野 4 名）を認める。
 - ・打者はバント無し、死球無し、2 ストライクからのファールはアウト、走者は盗塁無し。

【結果】

▷ 第一試合

チーム名	1	2	3	4	5	計
チーム南放技	0	0	1	0	0	1
チーム長野	2	3	1	2	1	9

▷ 第二試合

チーム名	1	2	3	4	5	計
チーム昭和組	0	0	0	0	2	2
チーム南放技	0	0	0	1	0	1

▷ 第三試合

チーム名	1	2	3	4	5	計
チーム昭和組	0	0	1	3	2	6
チーム長野	5	4	0	0	X	9

▶ チーム成績

優勝 チーム長野 2勝

2位 チーム昭和会 1勝1敗（※地域で活躍するバレーボールチームです）

3位 チーム南放技 2敗

▶ MVP：新米「伊佐米ひのひかり4キ」3,500円相当（優勝の「チーム長野」から1名）

▶ 敢闘賞：焼酎、お菓子セット、仙巖園入場チケット など（各チーム監督から2名推薦）

▶ 保険あいおいニッセイ保険さまより応援隊のご家族にも賞品を頂きました！

【写真】



↑ 始球式から始まりました！（なぜか上投げ...）



↑ 熱戦、珍プレー、好プレー、逆転試合↑

第63回 鹿児島CT研究会

現地 50名
ハイブリッド開催
Web 150名
県内の技師優先

2026
01/31 土
14:30-17:00

ハイブリッド配信会場（現地）

鹿児島市立病院 2F 大会議室（50名）

〒890-8760 鹿児島県鹿児島市上荒田町37-1
電話番号：099-230-7000

お申し込み方法

参加申し込みは専用WEBサイトから

<https://passmarket.yahoo.co.jp/event/show/detail/02fge7x3rru41.html>



* 参加費用 *

無料：鹿児島県診療放射線技師会員・学生・一般（その他職種）
500円：県外の日本診療放射線技師会員
1000円：メーカー関係者
2000円：非会員（診療放射線技師）

申し込み締切：1月29日(木) 19:00

※ 日本X線CT専門技師認定機構、肺がんCT検診認定機構、日本救急撮影認定機構、日本診療放射線技師会の学術研修カウントの対象となります。

開催趣旨

今年度、CTにおいてご活躍された県内の診療放射線技師の皆様をお願いして、テクニカル・ノンテクニカルな部分の情報を共有していただくこととなりました。
また、特別講演では九州初となるフォトンカウントティングCTの稼働に従事している鹿児島大学病院の林 六計先生を迎えて、基礎から臨床まで幅広く講演していただきます。

プログラム

14:30~14:35 開会挨拶 鹿児島CT研究会 担当世話人

14:35~15:50 施設発表 今年度全国・九州学会で活躍された施設

- ▶ マルチペーシェント用CTインジェクションシステムがCTの造影検査に与える影響
鹿児島市立病院 木原 悠太
- ▶ 造影CT検査後の待機中における副作用観察体制の整備について
霧島市立医師会医療センター 坂口 右己
- ▶ 心臓+大動脈~下肢CTA -造影理論andちよい攻略-
青雲会病院 中村 空也
- ▶ 冠動脈 CT における体格補正を考慮した造影剤基準体重の有用性について
川内市医師会立市民病院 木場 あかり
- ▶ Photon-counting CTにおける撮影管電圧が仮想単色X線画像に与える影響
鹿児島大学病院 川野 零旺

15:50~15:55 休憩

15:55~16:55 特別講演

Photon-counting CTの臨床応用

—基礎原理とCT技術の歩みを踏まえて—

鹿児島大学病院 医療技術部 放射線部門 林 六計

16:55~17:00 閉会挨拶 鹿児島CT研究会 代表世話人

当世話人 鹿児島市立病院（米田）大井病院（愛下）鹿児島大学病院（林）川内市市民病院（沖中）霧島市医師会医療センター（二渡）

共催：鹿児島CT研究会 鹿児島県診療放射線技師会

問い合わせ先：099-230-7000(内線2141) 鹿児島市立病院 放射線技術科 米田

公益社団法人 鹿児島県診療放射線技師会 第80回 鹿児島消化器画像研究会

拝啓

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび第80回鹿児島消化器画像研究会をWEBにて開催する運びとなりました。

日々業務の中、ご多忙とは存じますが、多数ご参加の程よろしく願い申し上げます。

敬具

開催
日時

令和8年2月4日(水)
18:30～20:00

開催
形式

WEB開催
※事前登録が必要です

- 第1部● メーカー情報提供 (18:30-18:50)
司会：橋本 隆志 (霧島市立医師会医療センター)

FUJIFILM 透視装置の最新情報 (仮) (20分)

- 第2部● 胃X線基礎レクチャー (読影) (18:50-19:10)

症例検討における読影 南風病院 日高 稔

- 第3部● 胃X線症例検討 (19:15-20:00)

- 症例提示 鹿児島厚生連病院 萩原 純久
南風病院 淵脇 崇史

- 指定読影者
南風病院 山下 友也、上川 智弘
鹿児島厚生連病院健康管理センター 高松 広大、恒吉 雅也

<参加費> 診療放射線技師会 会員：無料 非会員：2000円

・参加方法：下記のURLか二次元コードよりご登録をお願いします。

<https://passmarket.yahoo.co.jp/event/show/detail/023bwnwzy2v41.html>



※ 事前登録期間
2026年1月5日(月)～2026年2月1日(日) 締め切り

(お問い合わせ先) 鹿児島消化器画像研究会事務局

鹿児島共済会南風病院 E-MAIL: kasyouken.mail@gmail.com

※研究会当日の配信に関する施設へのお問い合わせはご遠慮ください。

締め切り後に参加用URLをお送りします。メールの確認をお願いします。

共催 鹿児島県診療放射線技師会

会員各位

令和7年度鹿児島さくら RT 研修会

日時: 令和8年2月26日(木曜日)

時間: 19時00分 ~ 21時00分

会場: WEB開催のみ(Webex Meetings)

参加費: 日本診療放射線技師会会員、学生、一般: 無料, 非会員: 2000円

登録: 事前登録が必要です。2月23日(月)23時 締切

登録 URL: <https://passmarketl>

司会進行 鹿児島さくら RT 世話人 相良病院 吉岡 未来
[開会挨拶] 19:00~19:10
[県技師会活動報告] (公社)鹿児島県診療放射線技師会会長 大迫 俊一

[話題提供] 乳房について考えてみよう

19:10~19:40 座長 いまきいれ総合病院 丸尾 美由紀
「MG ポジショニング向上への挑戦~相良病院 ver.~」

相良病院 南 紫織

19:40~19:45 質疑応答

19:45~20:15

医療アートメイク

「心に寄り添う ブレストアートメイク」

ブレストアートメイク看護師 坂口 千枝

20:15~20:20 質疑応答

[講演] 嚥下造影について

座長 今村総合病院 上川 翔美

20:20~20:50

「嚥下造影検査(VF)で読み解く嚥下障害について~画像で支える「食べる力」~」

今村総合病院 言語聴覚士 若松 藍

[閉会挨拶] 21:00

尚、本会員参加者には、日本診療放射線技師会学術カウントが付与されます。

[連絡先] いまきいれ総合病院 中央放射線課 丸尾まで

メールアドレス marurun0123@imakiire.or.jp

公益社団法人鹿児島県診療放射線技師会 令和7年度第3回常務理事会議事録(抄)

日時:令和7年12月01日(月) Web開催(Webex)

出席理事: 大迫 俊一・渡邊 義治・恵 智徳・
市來 守・木原 悠太・藤崎 誠・
東 幸浩・米重 亮馬・木場 淳

欠席理事:なし

議長:大迫 俊一

開会:議長により令和7年度第3回常務理事会の開催が宣言された。

第1号議案

各常務理事より次回理事会議案について協議事項がないか確認を行った。

1, 会長

(1) 令和8年度定時総会・春季学術大会

次年度の定時総会・春季学術大会は、2026年5月31日に市立病院多目的ホールで実施する予定との報告があり、現在会場を予約していることについても報告された。

開催日程については、市内の運動会との重なりなど懸念点もあるが、会場の予約状況に加えて、会期が終わって3ヶ月以内に決算報告を行う必要があり、日程として7月以降への先延ばしができないことも日程決定の判断材料として提示された。日程に関する最終判断は、理事会で決定することで出席理事の同意が得られた。

会報第145号に記載する定時総会の議案など資料の問題について、現在、会報の電子化に向けて進めているが、会報は4月発刊前までは書面で郵送することが報告された。電子化に関する方針として、会報は議事録を掲示する目的で使用し、研究会の情報についてはLINEを使用して広報し、その他学術大会のアーカイブ等は県技師会のホームページに掲示するなどの意向が提示された。

上記会報第145号については、5月1日に発送予定であり、期末監査は、4/15頃に行い、その翌週(4月24日の週)までに入稿を終わらせておく必要があることの報告があった。

意見として、今回は会報が2026年5月15-16日に手元に届くことを念頭にスケジュールの確認を行ったが、米重理事より5月連休前後は業者の繁忙期であり、会報の発送や印刷に時間を要するとの報告があり、各日程の再確認が行われた。

木原理事より、2024年度は2025年4月7日に岩重先生へ関係書類を提出し、1週間後に決算書類の提示があったため、今年度も同様となる見込みとの報告があった。そのため、今年度の期末監査についても、最短でも4月7-8日に提出し、4月14-15日に決算書類提示のスケジュールになる可能性が

高いことの報告があった。そのため、会報第145号については、入稿・会報発行までのスケジュールについて、年始までに米重理事に再度確認・調整いただくことで承諾が得られた。

常務理事会については2026年4月19日あたりの実施を検討しており、招集通知が2週間以内に届けば良いとの提示も合わせて報告された。

(2) 企業の広告案内について

今回の学術大会で機器展示を行っているメーカーに対して大迫会長・恵副会長・藤崎(拓)理事の3名で挨拶回りと次年度の趣意書を渡したとの報告があった。今回新たに加えた『LINE・HPによる広報』に関してはおおむね好評であったとの内容であった。第4回理事会が終わった2025年12月頃に再度担当者へメールを行うとの報告があわせて行われた。

企業広告の募集者数は、25社~30社を見込んでおり、2026年2月に予算を立てるまでにおよその数を提示するとの報告があった。

(3) 事務所の清掃について

本年度の事務所清掃は、令和7年度第5回理事会時(2026年3月8日(日))に実施する方針であることが提示された。

上記理事会と清掃についての日程について、出席理事へ確認が行われ、承認が得られた。

(4) 県技師会連絡網の再整備

県技師会連絡網の再整備として、前会期から継続的に行っているが、現状として鹿児島市以外はすべて連絡網が作成できているとの報告があった。

今後の利用について、市内を除く各地域に関しては緊急の際などに連絡網を利用し、鹿児島市内については連絡網に変わる手段としてLINEの活用を促進していく方針であることが報告された。

(5) 会報の電子化について

会報第143号で提示された会報の電子化に関するアンケート結果が報告された。回答中、紙面での郵送希望は32件であり、情報の遅延や会費の減額などの懸念や提案も含まれていたとの報告であった。

情報の遅延については、LINEの友達登録を推奨し、会費の減額については、会費の増額を抑える目的である主旨を公示する意向が示された。

LINEについては、長文化せずに内容をPDF化するなど要検討する方針となり、研究会等で理事が中心となってLINE登録推奨キャンペーンを行う(会員・非会員問わず)ことが提案された。

(6) 福利厚生事業について(ボーリング大会)

福利厚生事業の開催について、今年度までは、ボーリング大会の開催に向けて検討していくが、市内開催のみだと福利厚生事業として各地域への還元が薄くなるため、来年度は各

地域での開催を提案予定であるとの報告があった。

内容については、ボーリング大会に限らず、各地域にレクリエーション費用として充てる予定であるとのことであった。なお非会員が参加する場合の参加費については再度検討するなどの提案が挙げられた。

その他、福利厚生事業を入会促進にも充てていくことの提案もあり、次回理事会で地域理事にも意見を求めて決めていきたいとの報告であった。

上記に伴う福利厚生費の追加予算については、次年度以降の会報を電子化することによる紙面発行費用の削減分から捻出する案が提示され、100ページのモノクロ印刷を50部行う場合の費用について米重理事に確認いただくよう依頼があった。

(7)大島地域の地域研究会支援について

大島地域は会員と理事が少ない現状であり、これまで協力いただいていた施設からの参加・協力が本年度から得られないとの連絡が大島地域理事の元理事からあったとの報告があった。

大島地域での研究会開催に向けたサポート案として、CT/MRI/AI 研究会との合同開催や、参加者を増やすため少数地域は非会員無料にするなどの提案がされた。

また、大島地域については地域としての開催ではなく、技師会広報事業・大島地域の技師会会員勧誘キャンペーンとして開催するとの提案があり、沖縄とのWEBを通した合同開催や、福利厚生として飲み会を加えるなどの提案も追加された。次回理事会の際に、各理事に意見を聴取する方針で報告がされた。

(8)次回の会報発行に関する注意点について

第143号の会報電子化に関するアンケートは個人の意見を提示するものとして扱われるため信書になるとの指摘があったとの報告があった。そのため次回以降の会報発行について、ハガキを同封することは難しいとの報告があった。

(9)各理事の役割について

2025年6月以降の新体制について、就任後の理事の役割の明確化について提示された。大迫会長より、各理事の業務に関する割り振り等は今後検討するとの回答があり、特に総務の市来理事、学術の藤崎(誠)理事、HP等の東理事への業務移行については12月中旬以降から大迫会長から各理事へ引継ぎを積極的に行うとの報告があった。

また、常務理事会について今後は三役会議と併せて行うことで会議の頻度を削減することや、相良病院での対面で開催する意向であることが示された。

(10)各研究会の役員一覧の再提出について

県のホームページに掲示している研究会の役員一覧について、現状の役員との乖離があるとの報告があった。内容につ

いて、各研究会の役員や年度の活動計画については、現在催促していないとの報告があった。特に、X線撮影研究会については数年開催されておらず、役員交代を含めた再編の必要があるとの提案があがった。

(11)学校訪問(出前授業)について

鹿児島市・鹿児島県の集会(健康増進の取り組み)として、鹿児島県診療放射線技師会の関わりで出前授業を検討することについての現状報告があった。

出前授業を行う際の提出先や方針・HP受付などを確認することや、派遣する内容やメンバーの選定、授業内容(中学生～高校生レベル)についての協議が行われ、まずは県教育委員会に確認する方針となった。

(12)JART・鹿児島技師会 WEB 懇談会

鹿児島県の代表として、大井病院の副島氏と鹿児島大学病院の丹羽氏が参加したとの報告があった。懇談会は、上記担当が交互にJART 会長へ質問を行う形式で行われたとの報告があった。

懇談会の具体的な内容として、会費に関する意見などがあがり、JART としても会報誌を電子化する意向や会費を下げることを検討しているとの報告があった。

また、研究会に参加すると様々な特典やお得になるポイント制度についての意見があがったが、検討段階で進められているものの具体的に進捗はないとのことであった。

その他、ラダーの話や救急の認定から技師会が抜けた理由など、90分間、活発に質問が行われたとの報告があった。

(13)原子力防災訓練の募集について

本年度の原子力防災訓練は、2026年2月7日に開催が決定したとの報告があった。LINEを用いて公募し14名の応募があり、その内、新規応募者が3名あったとの報告であった。現在、応募者の対応場所を調整中であり、決まり次第対象者に案内を行う予定であるとの報告であった。

また、本訓練では基礎講習受講必須ではなく、基礎講習会自身も、現在はWEB開催になっていることが報告された。

(14)公益監査について

2026年は公益監査の予定であり、三役全員参加することが周知された。

(15)各種報告書のLINE・HPへの投稿運用について

各研究会などの開催報告書について、開催報告書を作成・提出後に、LINE・HPに開催報告を案内してから会報に掲載する方針について提案された。加えてオンデマンドの案内も並行して掲載する意向が示され、回りの理事会で、理事の意見を聴取するとの報告があった。

(16)春季・秋季学術大会の発表について

春季・秋季学術大会の演題発表について、演題を募集しても昨今の2重投稿の縛りの影響もあり、演題を気軽に先行して

発表できない状況であるとの報告があった。

今後の演題募集については、全国で発表した内容を推薦して発表いただくなど、次回以降は、募集の在り方を検討していきたいとの報告があった。

(17) JART 第 4 回理事会報告

JART 第 4 回理事会として下記について報告があった。

- ① 第 43 回日本診療放射線技師学術大会が、2027 年 9 月 25 日(土)～26 日(日)に福岡で開催予定。本大会から 2 日間開催となる。
- ② 会員情報システム(JARTIS)の更新予定を予定しているが、更新の時期や次期システムについては未定であるとの報告であった。
- ③ JART 全体で新規入会者数があまり増えておらず、特に新卒は初年度無料なのでお試してもいいから入会のお願いをしてもらいたいとの報告があった。各県の入会者についても検討をするとの報告であった。
- ④ JART 会報の都道府県事務局への発送は原則廃止。
- ⑤ JART 事業委託料の値上げについて検討の話があったが、地域委員会からは JART が近々に年会費の減額を検討していることを鑑み、今は JART の支出を増やすべきでは無いと考え委託料の値上げは要望しないとの報告であった。

(18) 第 41 回日本診療放射線技師学術大会報告

第 41 回日本診療放射線技師学術大会の参加報告があった。ワクチン筋注行為に関する実技講習会の第 1 回が実施されたことや、演題としてラダーの話が多くされていたことが報告された。フレッシュャーズセミナーがより実務的な研修へ移行するなど大幅な見直しがされることもあり、リーダー研修会などでもラダーを活用して各施設へ還元する方針を構築していきたいとの報告であった。

2, 副会長(渡邊)

会長報告「(11)学校訪問(出前授業)」について、渡邊副会長より追加の報告が行われた。

学校出前授業について、2025 年 11 月 19 日に鴨池小学校小谷教頭先生と約 1 時間面談したとの報告があった。

小谷教頭先生は、理科担当教諭であり 3 年前まで薩摩川内市教育委員会で勤務されていたことが報告された。

放射線教育に関する現状として、放射線の副読本は現在配布されていないことや、過去に国から、副読本の利用について調査があったが指導法の整備が整わず利用していないとの回答があった。本件について国から特にお咎めなかったとの報告もあわせて行われた。

また、現在の教育カリキュラムに放射線は入っておらず、出前授業を企画しているならば、授業概要がわかる資料が欲しいとの要望もあり、理科の先生で興味がある先生はいると思う

ことや、鹿児島市、薩摩川内市の教育委員会につなぐことはできるとの建設的な意見もいただいた。

会長・理事からは、放射線に関する怖さを感じる小学生ではなく、今後の職業選択や理解力のある中学生以上、もしくは高校生に向けた授業を検討すべきであるとの提案や、しっかりした準備やカリキュラム・企画を準備して教育委員会に提示する必要があること、土曜授業が廃止になるため、カリキュラム的に難しい可能性があることなどの意見があがった。

また、東理事から、谷山小学校では放射線をカードゲームなどで学んでもらっていることや、純真学園大学が製作した放射線すごろくもあるなど具体的な話題があがり、聾学校への授業として、「放射線を計ってみよう」という内容を実施したとの報告があった。

大迫会長からは、大分県、埼玉県など出前授業を実施している県の話を参考にしたいとの意見もあがり、来年から開始していく予定であるとの報告があった。

3, 総務理事 : 特になし

4, 財務理事

令和 7 年度予算進捗状況報告として、2025 年 9 月までの上半期収支概要について木原理事より簡易報告があった。

収益についての報告として、会費の受け取り状況、広告収入の増加などが説明され、支出については、事業費と管理費などの科目別に説明があった。また手元にある流動資産についての報告も行われた。今後、①予定外の大きな支出がなく、前年度と同程度の支出であること。②予算通りの収入が得られることとワクチン筋注行為に関する実技講習会への支援金 10 万円が加わること。以上 2 点を勘案すると、このまま下半期も順当に運営できれば、前年度同等の黒字計上となる予定であり、翌年度に繰り越される金額が 10-20 万円確保できる見込みとの報告であった。

5, 学術理事

(1) 令和 8 年度九州地域放射線技師研修会(鹿児島)の件

令和 8 年度九州地域放射線技師研修会について、例年 12 月の第 2 週が開催日となっており来年は 2026 年 12 月 12 日(土)となっているとの報告があった。

会場は NC プラザを予約する予定であり、予約状況をみて別会場も検討する方針で参加理事の承認が得られた。

(2) 令和 7 年度リーダー研修の件

令和 7 年度リーダー研修の内容について、今年の九州 FRT で発表された FRT 九州代表の中島 佳子様の接遇に関する発表が非常に好評だったため、再度丸尾氏経由で依頼することが報告された。

(3) 令和 7 年度鹿児島地域研修会の件

昨年は学術奨励賞の授与を行ったが、今年度も学術奨励賞を授与する方針であることが大迫会長から示された。推薦・募

集については、各研究会から推薦いただくことが示された。

大迫会長から、霧島・始良地域研修会に参加した際に、超音波関連で Accept された論文があるとの報告もあった。

また、令和 7 年度鹿児島地域研修会については、2026 年 3 月 21 日(土)に開催予定であることがあわせて報告された。

6, 福利厚生理事

(1) ボーリング大会の日程について

会長報告「(6)福利厚生事業(ボーリング大会)」について再度協議が行われた。今年度の開催日程について、早期に決定していくとの方針が示された。

(2) 南薩地域の野球大会についての補填(次年度以降)

来年度以降の各地域への福利厚生還元事業として、南薩地域の野球大会についての補填に関する詳細について協議が行われた。会員 1 人参加につき規定額を支払い、上限額を定めるなどの提案がされた。費用については領収書を発行し、報告書の記載と提出を行うとの方針が示された。

その他の各地域でも、どのような内容を行うのか企画書を提示して予算を割り当てることが提案され、会報の紙面削減により計上できる資金での運用を行うことが報告された。

(3) 大島の会員・非会員について

会長報告「(7)大島地域の地域研究会支援」について再度確認が行われた。

2026 年 2 月 21 日(土)の大島地区研修会にて、大迫会長と渡邊副会長が参加し現地で協議することが報告された。

7, 編集・広報

米重編集・広報理事より、会報第 144 号の発行スケジュールについて、2026 年 1 月末発行を想定して日程に関して説明があった。

会報の内容については、巻頭言を恵副会長が担当し、組織便りを木場理事、財務便りを木原理事が担当することが確認され、第 20 回九州放射線医療技術学術大会報告・ワクチン筋注行為に関する実技講習会の報告・CT/MRI 研究会開催報告については原稿を受領しており、乳腺画像研究会と健康まつり、急病センター研修の開催報告については原稿をいただいているとの報告があった。

8, 表彰理事

渡邊表彰理事より、JART 表彰対象者の報告があった。

(1) JART 地域功労賞 : 野中康博氏を推薦

(2) 50 年表彰 推薦者 : 該当なし

(3) 30 年表彰 推薦者 : 10 名を推薦

9, 組織

(1) 会員動向について

前回理事会報告以降(2025 年 7 月 29 日~2025 年 11 月 28 日現在)、入会 12 名、再入会 0 名、退会 4 名、転入 0 名、転出 5 名、勤務先施設情報登録 0 件、勤務先施設情報変更 1

件であり、各処理を行ったとの報告があった。2025 年 11 月 28 日現在の正会員数は 641 名であるとの報告があった。

(2) 退会申請について

JARTIS からの退会申請が 8 月 1 日より解禁され、4 名の申請があった。いずれも今年度会費未納であった。当初納入後に通知が来るものだと思っていたが、納入状況の共有であった。「システムに納入が反映されるのに数日かかる」とあったが、1 日後に反映された者から、数日たっても反映されない事例があったため、当会からも納入依頼メールを送信し全員納入後に退会完了となっているとの報告があった。

(3) 除籍対象予定者について

JARTIS にて除籍対象者予定者(未納 2 年)がリストアップされた。今年度は 18 名と激増(昨年度 9 名)しており、メールにて納入催促を行ったとの報告があった。また、メールアドレス登録のない会員へは書面の郵送を依頼しており、2025 年 11 月 28 日時点で対象者 15 名であることが報告された。

(4) 県ホームページへの問合せ対応について

県のホームページへの下記 2 件の問合せがあり、対応を行ったとの報告があった。

① 技師会の入会手続きをしたが連絡が来ておらず、手続きできているか確認したいとの依頼があり、JART 事務所へ照会したところ、JARTIS 登録のみで入会申請はされておらず、入会申請の依頼を行った。

② 鹿児島県から退会した非会員が告示研修を受講したいが JARTIS ログインできず再設定メールが受信できないとの依頼があり、JART 事務局へ対応依頼し登録されていたメールアドレスへパスワード再設定メール送信し受信確認を本人へ依頼した。

(5) 年会費 2 年未納者の退会申請の対応について

10 月 2 日に県ホームページからオンライン退会申請があったが年会費 2 年未納者であった。先に除籍対象者で納入依頼済であったが改めてメールにて未納分の納入を通知した。同施設勤務理事へ声掛け依頼までも今日まで納入されていない状況であり、会長へ相談しそのまま未納であれば退会申請は「取下」とし来年度始めに除籍退会にすることとした。

第2号議案 その他

その他の議案として、第 4 回 理事会日程が、2025 年 12 月 20 日(土)に開催の最終確認がされた。

閉会

議長より全ての議事が終了し、令和 7 年度 第 3 回 常務理事会の閉会が宣言された。

令和 7 年 12 月 01 日

会 長 大迫 俊一

理 事 藤崎 誠・東 幸浩・米重 亮馬

議事録作成者 理 事 市來 守

公益社団法人鹿児島県診療放射線技師会 令和7年度第4回理事会 議事録(抄)

日時:令和7年12月20日(土)

場所:相良病院 (Web会議とのハイブリッド開催)

出席理事:

大迫 俊一・渡邊 義治・恵 智徳・市來 守・木原
悠太・藤崎 拓郎・東 幸浩・米重 亮馬・木場
淳・脇田 慎一・四本 齊・戸川 憲二・屋部 太
輔・武宮 太

(Web会議システムを通じての出席)

吉田 紫織・熊谷 繁夫・元 俊晶・木佐貫 克朗・
坂口 右己・愛下 剛・竹尾 晃一

欠席理事: 本村 克朗・藤崎 誠・藤村 卓也

出席監事: 太田原 美郎 (Web参加)

議長: 大迫 俊一

開会:議長より理事の過半数以上が出席しており、令和7年度
第4回理事会の開催が宣言された。

第1号議案 会長・副会長・各常務理事による活動報告(第16 条7項)

会務について大迫会長から説明があった。(別紙:会務報
告参照)

1, 会長

(1)令和8年度定時総会・春季学術大会日程について

次年度の定時総会・春季学術大会は、2026年5月31日
(日)に市立病院多目的ホールで実施する予定との報告があ
り、現在会場を予約していることについても報告された。それ
に伴い、期末監査は、4/15頃、総会資料(会報)の発送を5月
1日とすることの報告があった。

以上、令和8年度定時総会・春季学術大会日程について、
出席理事全員より賛同が得られ、承認された。

(2)企業の広告案内について報告

第20回九州放射線医療技術学術大会で機器展示を行っ
ているメーカーに対して大迫会長・恵副会長・藤崎(拓)理事の
3名で挨拶回りと次年度の趣意書を渡したとの報告が資料を
元に提示された。報告では現在14社の協賛があり、12月22
日に27社へ再度メールにて趣意書・広告掲載委託承諾書を送
るとのことであった。米重広報理事より、趣意書内の「発行
部数」について、次年度以降の紙面電子化に合わせた記載
修正の必要性について質問があったが、今年度までは現行
の記載で送付する方針となった。

(3)会報の電子化について報告

会報第143号で提示された会報の電子化に関するアンケ

ート結果が報告された。インターネットが73件、ハガキが12件
の合計85件の回答が得られた。そのうち、今後も紙面での郵
送を希望する方は32件であった。頂いたご意見のほとんどが
肯定的な内容である一方、会報の発行時期が不明な点や情
報の遅延を懸念する意見が寄せられた。情報の遅延につい
ては、LINEによる通知を活用することが提示された。また、
LINE友達登録案内の場を増やし登録者数の増加のため、理
事が中心となって各施設や研究会などでLINE登録推奨キャ
ンペーンを行う(会員・非会員問わず)ことが提案された。

会報を電子化することによる経費削減について、100ペー
ジのモノクロ印刷を50部に削減した場合、現在の見積もりで
約30万円/1回(年2回)の経費削減につながることの説明が
あった。この費用に関しては、最近の物価高への対策、入会
の促進と組織率の向上、研究会の充実などに充てるとの指針
が提示された。会報電子化への移行の方針として、2026年度
初回については紙面で送付予定であり、2026年度の秋と
2027年の新年号から電子化へ移行するとの案が提示された。
合わせて電子化に関する他県の状況として、長崎県が今年度
から全紙面の電子化が行われたとの情報共有があった。

(4)福利厚生事業について

福利厚生事業として、今年度はボウリング大会の開催予定
であるが、市内開催のみだと福利厚生事業として各地域への
還元が薄くなるため、来年度は各地域での開催提案があり下
記の内容が提案された。

目的:会員相互の交流促進、地域連携の強化

事業区分:その他事業(福利厚生/交流事業)として実施

補助:地域助成は「基本枠+参加者連動(上限)」

(例:2万円+500円×参加人数)

非会員の扱い:入会促進キャンペーンによる参加費の減額

(参加費例:非会員:1500円をキャンペーンのため750円)

メーカー参加費:非会員と同額または非会員+追加費用

*親睦を目的とし過度な営業・チラシ配布などは禁止

①予算について

支出の参考として木佐貫理事より、南薩地域の野球大会の
過去3年分の収支報告があり、支出として3万円前後であるこ
とが提示された。渡邊副会長より、予算の計上については、
「参加者へのLINE登録を実施すること」の名目に関して、会
員数の増加を目的とするのであれば、管理費としての計上す
ることも可能性として提示された(ただし、岩重先生への相談
が必要である)。次年度の総会までに予算の方針を決めること
が周知された。

②開催頻度について

大迫会長より、まずは年1回から行い、年3回の実施を目標
とすると提示された。木原財務理事より、基本枠を20000円と

するのであれば、年3回も可能であると報告があった。

③内容について

実施する内容については、各地域からの起案を募り、採用数を決定する方針が提示された。具体例として、ボウリング・釣り大会・トレッキング・マラソン大会参加・野球/ソフトボール大会・スポーツ観戦・BBQ・新年会などが提示された。木原理事より、現状実施している南薩地域の取り扱いや、複数の地域による枠の競合・選定についての質問が挙がり、大迫会長から、起案書の名目・副タイトルなども考慮して、起案書を提出したところを優先していく方針が示された。木佐貫理事より、福利厚生事業についての他職種の参加と扱いについて質問が挙がり、大迫会長より、家族や他職種については今後検討していくとの回答があり、診療放射線技師の会員/非会員/メーカーは住み分けを行い、内容に関して岩重先生に相談するとの報告があった。

また、その他企画案として、藤崎(拓)理事より新年会・懇親会について提案があった。大迫会長・木原財務理事より、目的を持った交流会であれば最大半額の補填が可能であり、他県でも実績があることが報告された。

以上、福利厚生事業について、各地域で持ち帰り、次回理事会で報告かつ財務より岩重先生への確認を行うことで出席理事全員より賛同が得られ、承認された。

(5)地域研修会の支援について

大迫会長より、大島地域は施設と会員が少なく研修会を開催するにあたり協力を得られにくい現状との報告があった。他の地域に関しても同様の状況は少なからずあるとの懸案が提示された。合わせて各地域より問題点や改善・サポートの希望を確認することがあれば、意見を提示するようとの報告があった。支援例として、大迫会長より、土曜日午後から研究会を行い、研究会後にBBQを行うなど、福利厚生事業とのコラボ企画や、研究会とのコラボ企画(研究会+情報交換会)などの具体案が示され、「学術団体と違う視点での支援を」を目標に、霧島・始良地域で行っている研究会に合わせた意見交換会のような流れを来年度の鹿児島地域でも行っていきたいとの提示があった。渡邊副会長より、「公益法人になる以前の文化を踏襲しよう」という方針で、過去の内容を確認することが提案され、まずは地域についての補填から行い、優先順位を決めて研究会については協議していくことが提案された。

質問として、熊谷理事より非会員の方に発表や座長等、協力いただくこともあるため、会費について、交通費・通信費以外に補填できないかとの意見があり、大迫会長・渡邊副会長より、研究会は世話人の非会員についても会費は徴収しているという現状が報告され、各研究会については、「会員の意思で報告している」という前提があるため、まずは各地域などの案・

意見の収集を行い、依頼する発表等については参加費を免除する方針で検討することを、次回理事会で決定したいとの意向が示された。以上、地域研修会支援について、次回理事会で最終的に決定する方針で出席理事全員より賛同が得られ、承認された。

(6)原子力防災訓練の募集について報告

本年度の原子力防災訓練は、2026年2月7日に開催が決定したとの報告があった。LINEを用いて公募し14名の応募があり、その内、新規応募者が3名あったとの報告があった。また、基礎講習受講に関して以前は対面式の講習会であったが、現在はWEB開催になっていることが報告された。

(7)各種報告書のLINE・HPへの投稿運用について

大迫会長より、各種報告書についての説明があり、各研究会など終了後の流れとして、主催者が開催報告書・会報用報告書を作成し学術常務理事に提出し、学術常務理事は、開催報告書を三役(会長・副会長・総務・財務)に回覧し承認をもらい、会報用報告書は広報に提出するという流れの説明があった。今後、会報誌を電子化することを考慮し、会報用報告書に関しては、広報担当理事からLINE・HPに開催報告を案内、最終的には会報にまとめたものを掲載する方針について提案された。加えてLINE・HP掲載時にはオンデマンドの案内も掲載することの提案があった。意見として、藤崎(拓)理事より、内容の検閲について三役の回覧についての再確認があった。以上、各種報告書のLINE・HPへの投稿運用について、出席理事全員より賛同が得られ、承認された。

(8)市民健康まつりについて報告

令和7年10月12日(日)に第42回市民健康まつりが西原商会アリーナにて開催されたとの報告があった。当日は、1,174人(MEDkids参加者数108人)と多くの来場者があり、今年度からLINEで募集を行い鹿児島県診療放射線技師会からは15名が参加し、超音波による骨密度測定、放射線相談・展示、子供を対象にした医療従事者職業体験(MEDkids)を実施し、それぞれ骨密度測定:584名、放射線相談:5名、MEDkids:74名を実施したとの報告であった。加えて、次年度開催の第43回市民健康まつりは、西原商会アリーナが改修工事のため鹿児島ふれあいスポーツランド(中山町)で令和8年10月18日(土)に開催することが決まったことが報告された。また、実行委員会にて骨密度測定装置をレンタル費用が2台で130000円と高額であるため、次年度は1台で検討していることが報告された(骨密度250-300件予定)。意見として、戸川理事・太田原監事より、市民健康まつりの放射線相談について、どのような内容があったのかを記録し、HPや会誌に載せるなどの対応をすることが提案された。大迫会長より、提案に同意し、追加として放射線相談については医療被ばく相談員や放射線治療に関する資格所有者が対応することを次回の

検討事項として提示された。

(9) 令和7年度第1回九州地域放射線技師会理事会・九州各県会長会議参加報告

令和7年12月13日(土)にナースプラザ福岡にて開催され、具体的な内容が報告された。まず人事として、今年度で吉田会長は退任することとなり、後任は次回役員会議にて決定することが報告された。また、次期体制より FRT 九州担当常務理事に関しても会長の県で人選し持ち回りとなることが報告された。FRT は女性の会で始まったが、現在は女性にかかわらず活動し、名称も、「フレンドリー診療放射線技師の会」という略語の変更があったものの、「何の勉強会なのか」不明確な点に問題もあったため、細則として明文化したものを今後作成することが報告された。また、情報発信として、九州地域放射線技師会 HP 改修に合わせて専用のページを作成し、積極的に行う方針が示され、運営についても、現在の竹下先生1名で管理していた内容を、各県から担当者を選出し運営をしていくことが報告された。加えて、日本診療放射線技師会 独立委員会 委員担当県ローテーションについては、九州から各県持ち回りで行っているが、今年度は総会運営委員(沖縄)、選挙管理委員(熊本)、表彰委員(佐賀)、入会促進委員(大分)となったとの報告があった。今年度、鹿児島を持ち回りはなしとの報告であった。次回、FRT 九州研修会は令和8年7月4日(土)福岡県で開催することが報告された。

2, 副会長

特になし

3, 総務

公文書発行一覧について、別紙資料を元に大迫会長から説明があった。別紙2:公文書発行記録参照

4, 財務

令和7年度予算進捗状況報告として、2025年9月までの上半期収支概要について木原理事より報告があった。収益についての報告として、会費の受け取り状況、広告収入の増加などが説明され、支出については、事業費と管理費ごとの科目別に説明があった。また手元にある流動資産についての報告も行われた。今後、①予定外の大きな支出がなく、前年度と同程度の支出であること。②予算通りの収入が得られることとワクチン筋注行為に関する実技講習会への支援金10万円が加わること。以上2点を勘案すると、このまま下半期も順当に運営できれば、前年度同等の黒字計上となる予定であり、翌年度に繰越される金額が10-20万円確保できる見込みとの報告であった。また12月17日(水)に中間監査を実施しており、今後の余剰金の残し方や用途について、事務所の積み立てなどを考慮しながら検討していただきたいとの報告があった。

5, 学術

(1) 令和8年度九州地域放射線技師研修会(鹿児島開催)に

ついて報告

令和8年度九州地域放射線技師研修会開催日程は、例年12月の第2週が開催日となっており来年は2026年12月12日(土)となっているとの報告があった。会場はNCプラザを予約する予定であり、予約状況をみて別会場も検討する方針で参加理事の承認が得られた。また令和9年度は、熊本開催予定であるが学術大会と重複する可能性があるため鹿児島開催になる可能性があるとの報告があった。

(2) 令和7年度リーダー研修について報告

令和7年度リーダー研修の内容について、今年の九州FRTで発表されたFRT九州代表の中島佳子様の接遇に関する発表が非常に好評だったため現在依頼中であることが報告された。

(3) 令和7年度鹿児島地域研修会について報告

昨年は学術奨励賞の授与を行ったが、今年度も学術奨励賞を授与する方針であることが報告された。推薦・募集については、各研究会から推薦いただくことが示された。また、令和7年度鹿児島地域研修会については、2026年3月21日(土)に開催予定であることが合わせて報告された。

【研究会等開催報告】

第52回 大隅地域研修会

日時: 令和7年9月20日(土) 15:00~18:00

開催場所: 大隅鹿屋病院/現地のみ

参加人数: 41名(会員31名、非会員2名)

他職種1名、メーカー7名)

内容: 大隅地域研修会アンケート報告・

話題提供: 3演題、教育講演: 1演題

テーマ討論: 概要報告1演題・6施設

第62回 鹿児島CT研究会

日時: 令和7年9月25日(木) 19:00~21:00

配信元: 米盛病院/Webのみ

参加人数: 124名

(会員121名、非会員2名、他職種1名)

内容: 施設紹介: 1演題、

施設発表: 5演題、特別講演: 1演題

鹿児島MRI研究会

第30回 鹿児島MRI研究会

日時: 令和7年9月26日(金) 18:30~20:00

配信元: 鹿児島大学病院/Webのみ

参加人数: 30名

(会員29名、非会員0名、メーカー1名)

内容: メーカー講演: 1演題、特別講演: 1演題

第46回 南薩地域研修会(鹿児島 AI 研究会)

日時:令和7年9月27日(土)15:00~18:00

開催場所:県立薩南病院/ハイブリッド

参加者:54名(Web参加20名)

(会員43名、非会員2名、メーカー3名、
学生4名、一般2名)

内容:会員発表:3演題、メーカー講演:2演題

第79回 鹿児島消化器画像研究会

第29回 鹿児島超音波研究会

日時:令和7年10月15日(水)18:30~20:00

配信元:南風病院/Webのみ

参加人数:52名

(会員52名、非会員0名)

内容:ミニレクチャー:1演題

会員報告:5演題

鹿児島乳腺画像研究会

令和7年度 鹿児島乳腺画像研究会

日時:令和7年11月5日(水)18:30~20:30

配信元:鹿児島市立病院/ハイブリッド

参加人数:29名 (Web参加14名)

(会員20名、非会員3名、メーカー6名)

内容:メーカー講演:1演題、特別講演:1演題

令和7年度 第1回 夜間急病センター研修会

日時:令和7年11月20日(木)19:25~20:30

場所:鹿児島市精神保健福祉交流センター

対象:派遣登録者(全員)、一般会員

参加人数:28名

(夜間急病センター当直者23名、一般会員5名)

内容:特別講演:1演題

霧島始良地域・

鹿児島県診療放射線技師会秋季学術大会

令和7年度 霧島・始良地域研修会

日時:令和7年11月22日(土)13:30~16:30

開催場所:霧島市立医師会医療センター/ハイブリッド

参加人数:53名(Web参加17名)

(会員53名、非会員0名)

内容:会員発表:4演題、情報提供:2演題

特別講演:1演題

ワクチン筋注行為講習会 16:30~17:30

ファシリテータ(3名)・他補助スタッフ(5名)

参加人数:20名

令和7年度 放射線管理支部会研修会

日時:令和7年12月6日(木)16:00~18:30

配信元:相良病院/ハイブリッド

参加人数:20名(Web参加7名)

(会員12名、非会員0名、学生8名)

内容:特別講演:2演題

・各研究会から出たご意見

<第52回 大隅地域研修会より>

「今回からメーカー有料となったが演者としてお願いした事もあり現地判断で徴収しなかった。」「非会員の若手技師にパネラーとして参加して頂き、技師会活動を体験してもらった。」

「今まで未参加の施設に直接案内を行い、新規の参加者を獲得することが出来た。」との意見があり、大迫会長より、3月の理事会で結論を出すとの回答があった。

<第46回 南薩地域研修会>

「開始時間が遅れた影響で休憩時間を短縮せざるを得なかった。」「開始後しばらくWebでは音声が開こえなかった。会場のマイクが足りなかった。」との意見があり、大迫会長より追加でマイクを2本購入したとの回答があった。

6, 福利厚生

渡邊副会長より、今年度のボウリング大会の日程について質問があり、大迫会長より今年度の開催日程について、早期に決定していくとの方針が示された。

7, 編集・広報

米重編集・広報理事より、会報第144号の発行について、スケジュールの確認を行が行われ2026年1月末発行に向けて準備することとなった。

8, 表彰

渡邊表彰理事より、下記3項目に関する対象者の報告があった。藤崎(拓)理事より、対象者については現在連絡とっていることが報告された。

(1)JART 地域功労賞:野中康博氏を推薦

(2)50年表彰 推薦者:該当なし

(3)30年表彰 推薦者:10名を推薦(1名年会費未納のため表彰保留中)

9, 組織

大迫会長より、会員数の動向については、告示研修目的での入退会が増えたことが影響していることと、退会については今後増える可能性が高いことが周知された。また、JARTISからの新しい退会申請方法が8/1より解禁され、4名から申請があったことが報告された。対象者はいずれも今年度会費未納であり、当初納入後に通知が来るものだと思っていたが、納入状況の共有であったことが報告された。加えて、「システムに

納入が反映されるのに数日かかる」とあったが、1日後に反映された者から、数日たっても反映されない事例があったため、当会からも納入依頼メールを送信し、全員納入後に退会完了となっているとの報告であった。

また、JARTISにて除籍対象者予定者(未納2年)がリストアップされたことが報告された。今年度は18名と激増(昨年度9名)しており、10/17メールにて納入催促を行い、メールアドレス登録のない会員へは書面の郵送を依頼したことが報告され、2025/12/19時点で対象者11名となっていることが提示された。

県HPへの問合せ対応は2件行っており、①技師会の入会手続きをしたが連絡がこないため、手続きできているか確認したいとの問合せがあり、JART事務所へ照会したところJARTIS登録のみで入会申請はされておらず入会申請を依頼したこと、②鹿児島県から退会した非会員が告示研修を受講したいがJARTISログインできず再設定メールが受信できないとの問い合わせがあり、JART事務局へ対応依頼し、登録されていたメールアドレスへパスワード再設定メール送信し受信確認を本人へ依頼したことが報告された。

議題 2 会員動向報告(第6条):組織

会員動向(2025年11月末時点)

年月	月末会員数	入会	転入	転出	退会
2024年度集計	631	48	6	7	30(除籍6)
2025年8月	639	4	0	1	2
2025年9月	636	2	0	3	2
2025年10月	642	6	0	0	0
2025年11月	641	0	0	1	0
2025年度集計	640	29	4	9	15

※入会申請中4件(支払期限超過1件含む)、2025年度集計は12月19日時点

議題 3 その他

(1)今後の予定について

次回理事会(令和7年度第5回理事会)の日程は、2026年3月8日(日)13時から坂元事務所にて開催することが報告された。また、当日の10時から事務所清掃を行うことが周知された。

(2)各理事より報告・審議

藤崎(拓)理事より、ワクチン筋注講習会の今後の対応と予定について、実施の方法や対応者・対応する理事などの確認があった。大迫会長より、今後2~3年は各地域にて行う予定とし、経験のある愛下理事・坂口理事を中心にまずは慣れている人が対応して、各地域理事で対応できるように検討していく方針が示された。次年度春の総会で実施予定であることが合わせて報告された。

閉会

議長より全ての議事が終了し、令和7年度第4回理事会の閉会が宣言された。

令和7年12月24日

公益社団法人 鹿児島県診療放射線技師会

会長 大迫 俊一

監事 太田原 美郎

理事 四本 斉・吉田 紫織

議事録作成者

理事 市來 守

公益社団法人 鹿児島県診療放射線技師会 行事・活動予定

2025年

4月	23日(水)	期末監査	坂元事務所
5月	1日(木)	令和7年度 第1回常務理事会	相良病院・Hybrid
	11日(日)	つながる想い in かごしま	かんまちあ
	18日(日)	表彰委員会	相良病院・Hybrid
	21日(水)	鹿児島CT研究会	WEB
	23日(金)	令和7年度 第1回 理事会	相良病院・Hybrid
	25日(日)	令和7年度 第1回告示研修会	鹿児島医療技術専門学校
6月	8日(日)	第104回定時総会及び春季学術大会	鹿児島市立病院・Hybrid
	8日(日)	令和7年度 第2回 理事会	鹿児島市立病院
	22日(日)	令和7年度 フレッシュアップセミナー	南風病院・WEB
7月	5日(土)	第10回FRT九州研修会	佐賀
	12日(土)	第23回鹿児島県医療情報システム研究会	鹿児島市立病院・Hybrid
	16日(水)	第78回鹿児島県消化器画像研究会および第28回鹿児島超音波研究会	WEB
	29日(火)	地域・部会・研究会を対象とした研究会開催についての意見交換会	WEB
	31日(木)	令和7年度 第2回常務理事会	WEB
8月	2日(土)	令和7年度鹿児島県医療画像情報精度管理士部会	ひらやま脳神経外科・Hybrid
	9日(土)	令和7年度 第3回 理事会	相良病院・Hybrid
	17日(日)	令和7年度 第2回告示研修会	鹿児島医療技術専門学校
9月	12~14日	第41回 日本診療放射線技師学術大会	福井
	20日(土)	第52回大隅地域研修会	大隅鹿屋病院
	23日(火)	令和7年度 甲状腺簡易測定研修	鹿児島県文化センター宝山ホール
	25日(木)	第62回鹿児島CT研究会	WEB
	26日(金)	第30回鹿児島MRI研究会	WEB
	27日(土)	第46回南薩地域研修会・鹿児島AI研究会 合同研究会	鹿児島県立薩南病院・Hybrid
10月	12日(日)	第42回市民健康まつり	西原商会アリーナ
	15日(水)	第79回鹿児島県消化器画像研究会および第29回鹿児島超音波研究会	WEB
11月	1日・2日	第20回九州放射線医療技術学術大会(鹿児島)	カクイックスホール
	5日(水)	第11回 鹿児島乳腺画像研究会	鹿児島市立病院・Hybrid
	20日(木)	令和7年度鹿児島市夜間急病センター当直者研修会	鹿児島市精神保健福祉交流センター
	22日(土)	ワクチン接種行為講習会 in 霧島始良地域	霧島市立医師会医療センター
	22日(土)	霧島始良地域・鹿児島県秋季学術大会	霧島市立医師会医療センター・Hybrid
	24日(月)	南薩地域:スポーツ交流会 2025	加世田運動公園
12月	1日(月)	令和7年度 第3回常務理事会	WEB
	6日(土)	放射線管理士部会 研修会	相良病院・Hybrid
	7日(日)	令和7年度 第3回告示研修会	鹿児島医療技術専門学校
	13日(土)	令和7年九州地域放射線技師研修会	福岡県

12月	17日(水)	中間監査	坂元事務所
	20日(土)	令和7年度 第4回 理事会	相良病院・Hybrid

2026年

1月	31日(土)	第63回鹿児島CT研究会	鹿児島市立病院・Hybrid
2月	4日(水)	第80回消化器画像研究会	WEB
	7日(土)	令和7年度鹿児島県原子力防災訓練	さつま町・日吉・長島
	21日(土)	大島地域研修会	県立大島病院
	26日(木)	令和7年度鹿児島さくらRT研修会	WEB
	28日(土)	予定_北薩地域研修会	未定
3月	7日(土)	予定_第47回南薩地域研修会	前原総合医療病院・Hybrid
	8日(日)	令和7年度 第5回 理事会	坂元事務所
	10日(火)	予定_令和7年度放射線機器管理士部会研修会	未定
	21日(土)	予定_鹿児島地域研修会	未定

漏洩線量測定事業のご案内

公益社団法人鹿児島県診療放射線技師会では、放射線を取扱う専門職として資格を有する団体の一般社会への利益還元事業と公益事業の一環として、放射線安全管理の啓発を兼ねた環境測定事業を実施しています。基本的には、当該施設会員と放射線管理士部会からの派遣技師と2名で実施する予定です。法令で規定してある測定はX線検査室の周囲だけではなく敷地内病室、居住区域、敷地境界も測定しなければなりません。その測定方法及び測定値の取扱いについての説明も致します。また、測定事業に併せて施設の放射線管理のアドバイスも行っております。些細な事でもご相談ください。

料金は、会員がいる施設が、基本料金2万円+測定料金1方向5千円、会員がいない施設は基本料金4万円、ただし、歯科医院等の場合は、基本料金は2万円となっています。

ご希望の施設がございましたら、見積等をご提示しますので下記電話メールにてご照会下さい。

公益社団法人鹿児島県診療放射線技師会 放射線管理士部会 担当 藤崎
 ☎0996-23-4418 (川内市医師会立市民病院放射線課) krt2@kagoshima-rt.jp

公益社団法人 鹿児島県診療放射線技師会役員名簿

事務所住所 〒892-0861 鹿児島県鹿児島市東坂元4丁目28-11

2025-2026年度

役職名		氏名	所属
会長		大迫 俊一	相良病院
副会長		渡邊 義治	清泉クリニック整形外科内科
		恵 智徳	今村総合病院
常務理事	総務	市來 守	今村総合病院
	財務	木原 悠太	鹿児島市立病院
	学術	藤崎 誠	南風病院
	福利厚生	東 幸浩	鹿児島医療技術専門学校
	広報	米重 亮馬	鹿児島市立病院
	組織	木場 淳	鹿児島市医師会病院
	表彰	渡邊 義治	(兼務)
理事	総務	恵 智徳	(兼務)
		脇田 慎一	いづろ今村病院
		東 幸浩	(兼務)
		四本 斉	上町いまきいれ病院
		吉田 紫織	相良病院
	学術	愛下 剛	大井病院
		本村 克朗	鹿児島大学病院
		戸川 憲二	メディポリス国際陽子線治療センター
		竹尾 晃一	鹿児島医療センター
		武宮 太	(兼務)
	福利厚生	藤村 卓也	鹿児島医療技術専門学校
	財務	屋部 太輔	米盛病院
	地域理事	鹿児島	武宮 太
北薩		藤崎 拓郎	川内市医師会立市民病院
霧島・始良		坂口 右己	霧島市立医師会医療センター
大隅		熊谷 繁夫	昭南病院
南薩		木佐貫 克朗	加世田病院
大島		元 俊晶	鹿児島県立大島病院
監事		太田原 美郎	明輝会クリニック
		米山 光明	川内市医師会立市民病院(外部)

編集後記

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、良いお正月をお迎えることとお慶び申し上げます。

冒頭にはなりますが、会報 144 号をお読みいただき、誠にありがとうございます。今回も皆様のご協力を得て無事発行できたことを、この場を借りて感謝申し上げます。

さて、今年は午年となります。正式には「丙午（ひのえうま）」と呼ばれ、情熱や変化、力強い成長を象徴する年とされています。馬が持つ活発さや行動力、独立心といった特徴が強く表れる一年となるでしょう・・・と AI に教えて頂きました。最近の AI はなんでも教えてくれて助かります。検索するところらが求めているだろう回答が同時に出てきます。・・・ということですので、折角の午年ですから今年は AI の成長に負けないように、ワークライフバランスを大事にしながら昨年のようなアブラギッシュではなく、エネルギッシュな一年を過ごしたいと思います。

結びにはなりますが、今後も会員の皆さまに読んでいただける紙面作りを目指していきますので引き続き応援よろしく申し上げます。

(米重 亮馬)

鹿児島県診療放射線技師会 会報 第 144 号 (令和 8 年 1 月)

発行 : 公益社団法人 鹿児島県診療放射線技師会

発行人: 大迫 俊一

編集者: 米重 亮馬

印刷 : 株式会社 トライ社

鹿児島市南林寺町 12-6 099-226-0815

磁気共鳴診断装置

MAGNETOM Flow

Empowering you.

www.siemens-healthineers.com/jp

Tackle to mega challenges in MRI by technological innovations.

サステナブルで効率的な病院経営を支える

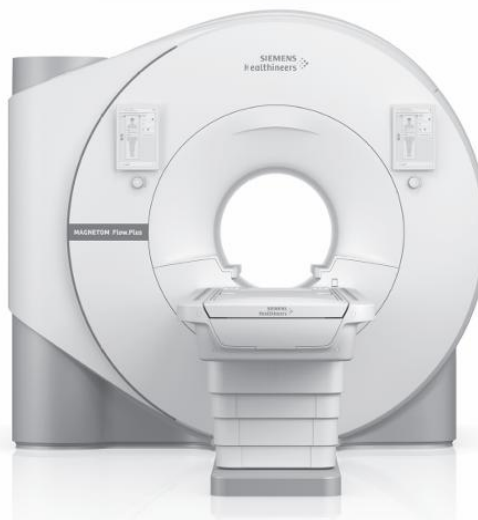
ヘリウムフリー* 1.5T MRI 装置

MAGNETOM Flowは、サステナブルな次世代型1.5T MRIプラットフォームで、日常の検査に抜本的な新しいフローをもたらします。

ヘリウムに依存しない超電導MRIの新時代を切り拓き、AIを活用した新たなイメージングプロセスを通じて、画期的なワークフローのシンプルさ、そして卓越した高品質の画像をかつてないスピードで提供します。

MAGNETOM Flowは、サステナブルで効率的なMRI検査運用を実現します。

*液体ヘリウムは0.7リットルのみ使用



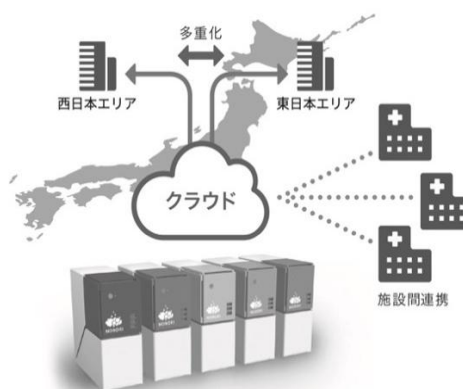
SIEMENS
Healthineers

超電導磁石式全身用MR装置 MAGNETOM フロー 認証番号: 306A8Z00051000



次世代 PACS は セキュアなクラウドサービスへ

「NOBORI」はIT技術によって、
画像などの医療情報を安全に保管・利用できる
新しいクラウドサービスです。



Feature 01

院内サーバ
不要

Feature 02

スピーディーな
画像参照

Feature 03

安心・安全の
データ保管

Feature 04

初期投資
ゼロ

Feature 05

障害自動検知

Feature 06

施設間連携
にも対応



PSP株式会社 〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目5番1号 博多大博通ビルディング12階 TEL. 03-5657-4315 www.psp.co.jp

Canon

医療の本質を見抜く、High Resolution ADCT。

Area Detector CT「Aquilion ONE」と、
高精細 CT「Aquilion Precision」で培った技術を継承、刷新し、
超解像画像再構成技術とAIを活用した自動化技術*1を搭載。

Aquilion ONE

INSIGHT Edition



*1 自動化技術: 設計の段階で AI 技術を使用しており、本システムは自己学習機能を有しておりません。
【一般的名称】全身用X線CT診断装置 【販売名】CTスキャナ Aquilion ONE TSX-308A 【認証番号】305ACBZX00005000
B000893

キヤノンメディカルシステムズ株式会社 <https://jp.medical.canon>

Made For life

PHILIPS

✦
Feel the freedom with
BlueSeal MRI

Better care
for more people

製造販売業者
株式会社フィリップス・ジャパン
www.philips.co.jp/healthcare

記載されている製品名などの固有名称は、Koninklijke Philips N.V. または
その他の会社の商標または登録商標です。
©2024 Koninklijke Philips N.V.



DO LESS.

CARE MORE.



MEDRAD® Centargo CT Injection System

操作の時間は最小限に 患者さんへの思いやりは最大限に
造影検査をさまざまな角度から効率化。より多くの時間を患者さんのケアのために。
それは医療を行う上でとても大切なこと、MEDRAD® Centargoが目指すこれからの検査のかたち。

Clear Direction. ➤ From Diagnosis to Care.

PP-M-CEN-JP-0112-19-01

管理医療機器 / 多相電動式造影剤注入装置
販売名 / Centargo CTインジェクションシステム
認証番号 / 302AABZX00091000

製品に関する詳細情報は、各製品の取扱説明書、添付文書をご参照ください。

お問合せ
サービスコール 0120-60-9040
24時間サービスコール対応



製造販売業者
バイエル薬品株式会社
大阪市北区梅田2-4-9 〒530-0001
E-Mail: BYL-RAD-CS@bayer.com

製品の詳細は、
二次元コードから
弊社Webサイトで
ご覧いただけます。

nihon
medi+physics



PET/SPECT

処方箋医薬品[※]
放射性医薬品・慢性腰痛診断薬・虚血性心疾患診断薬・てんかん診断薬

FDGスキャン[®]注
放射性医薬品基準フルデオキシグルコース (¹⁸F) 注射液

処方箋医薬品[※]
放射性医薬品・心臓疾患診断薬・甲状腺疾患診断薬・腫瘍(脳・甲状腺・肺・骨・軟部・乳房) 診断薬

塩化タリウム(²⁰¹Tl)注NMP
日本薬局方塩化タリウム (²⁰¹Tl) 注射液

処方箋医薬品[※]
放射性医薬品・慢性腰痛診断薬・炎症性病変診断薬

クエン酸ガリウム(⁶⁷Ga)注NMP
日本薬局方クエンガリウム (⁶⁷Ga) 注射液

処方箋医薬品[※]
放射性医薬品・骨疾患診断薬

クリアボーン[®]注
放射性医薬品基準ヒドロキシメチレンジホスホン酸テクネチウム (^{99m}Tc) 注射液

※:登録商標
注)注意・医師等の処方箋により使用すること

■ 効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等は、添付文書をご参照ください。

製造販売元
日本メジフィジックス株式会社

〒136-0075 東京都江東区新砂3丁目4番10号
文献請求先及び問い合わせ先 ☎ 0120-07-6941

弊社ホームページの「医療関係者専用情報」サイトで
SPECT・PET検査について紹介しています。
<https://www.nmp.co.jp>

2024年12月改訂

Nemoto

DUAL SHOT
GX10

CT CONTRAST DELIVERY SYSTEM

NEW



販売名: 造影剤自動注入装置 デュアルショット GX10 / 認証番号: 304AHBZX00011Z00

株式会社 **根本杏林堂**

製造販売元: 埼玉県川口市青木2-12-23 / 販売元: 東京都文京区本郷2-27-20

※本製品の仕様及び外観は予告なしに変更する場合がありますのでご了承下さい。



KONICA MINOLTA

Giving Shape to Ideas

多様な視点で未来をデザインする
RETHINK WHAT'S POSSIBLE

バッテリー内蔵“1.9kg”の軽量設計
迅速なワークフローを実現

超軽量 高感度 高耐久

AeroDR swift
1417HL

軽量化・把持性・高画質で、カセット撮影に変革を

バッテリー内蔵1.9kg	100μm画素/DQE59%*1	全周くぼみ設計
MIL規格*2	防水・防塵IP56*3	高耐久抗菌設計*4

AeroDR swiftは『デジタルラジオグラフィー-SKR3000』を構成するP-85(製造販売認証番号:228ABBZX00115000)の呼称です。
★KONICAMINOLTAロゴ、シンボルマークは、日本及びその他の国におけるコニカミノルタ株式会社の登録商標です。★AeroDR swiftは、日本及びその他の国におけるコニカミノルタ株式会社の登録商標または商標です。★その他記載の会社名、製品名はそれぞれの会社の商標または登録商標です。*1: 1mR, 1cycle/mm(DQEの数値はTypical値です。)*2: Method 516.7 Procedure IV Transit Drop(122cm(48インチ)の高さから、合板の上には6平面、12線、8頂点、計26箇所を各1回落下させる。)本製品の耐衝撃性能は、無破損・無故障を保障するものではありません。*3: IP規格(防水・防塵規格)は、IEC(国際電気標準化会議)によって定められています。本製品の防水・防塵性能は、完全防水・防塵、無破損・無故障を保障するものではありません。*4: 抗菌効果は全ての菌に有効ということではありません。また、抗菌は感染を完全に防げるわけではありません。

製造販売元: コニカミノルタ株式会社 販売元: コニカミノルタ ジャパン株式会社 105-0023 東京都港区芝浦1-1-1 <http://www.konicaminolta.jp/healthcare>





さまざまな検査を低線量・高画質でサポート

SONIALVISION G4  edition



製造販売認証番号 224A8BZX00052000

据置型デジタル式汎用X線透視診断装置 (X線テレビシステム SONIALVISION G4)
据置型デジタル式汎用X線診断装置※、X線平面検出器出力読取型デジタルラジオグラフィ※
二重エネルギー骨X線吸収測定装置※、管理医療機器、特定保守管理医療機器、設置管理医療機器
※本医療機器は複数の一般的な名称に該当します。



株式会社 島津製作所 医用機器事業部
<https://www.med.shimadzu.co.jp>

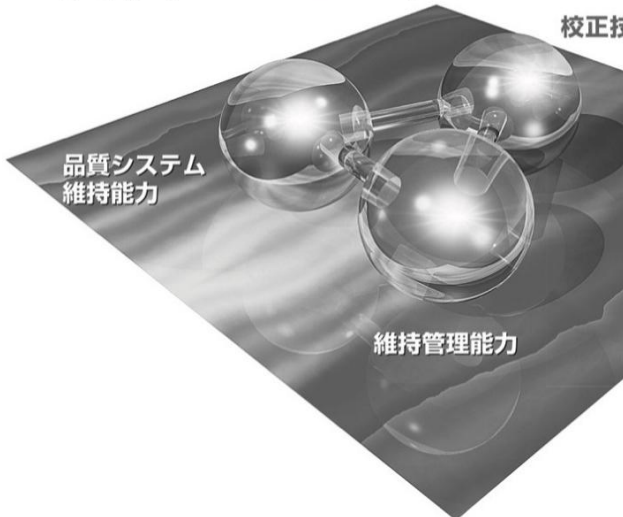
お客様へ、正しさに基づく安心を
ご提供いたします。



校正技術能力

年に1回

品質システム
維持能力



維持管理能力

放射線測定器の校正を済ませましょう

正しい測定、確実な放射線・放射能管理を行うためには、使用する測定器が定期的に校正されている必要があります。弊社大洗研究所は、計量法に基づく、校正事業者登録制度(JCSS)におけるγ線の登録業者です。国家標準とトレーサビリティが取れており、信頼性の高い校正サービスを提供いたします。



大洗研究所では、1972年から放射線標準を保有。計量法校正事業者登録制度(JCSS)におけるγ線の校正事業者として登録。また、国際MRA対応認定事業者として、国際相互承認(Mutual Recognition Arrangement)加盟国に適用する認定マーク付きの校正証明書が発行可能です。

●弊社校正サービスは、ISO9001の要求事項(監視および計測機器の管理)に有効に活用できます。

※詳しくは下記までお問い合わせください。

放射線測定器校正サービス(一般校正)

放射線測定器校正



株式会社 **千代田テクノル**

E-mail: ctc-master@c-technol.co.jp

<https://www.c-technol.co.jp>

Creating a world where
healthcare has no limits



GE HealthCare

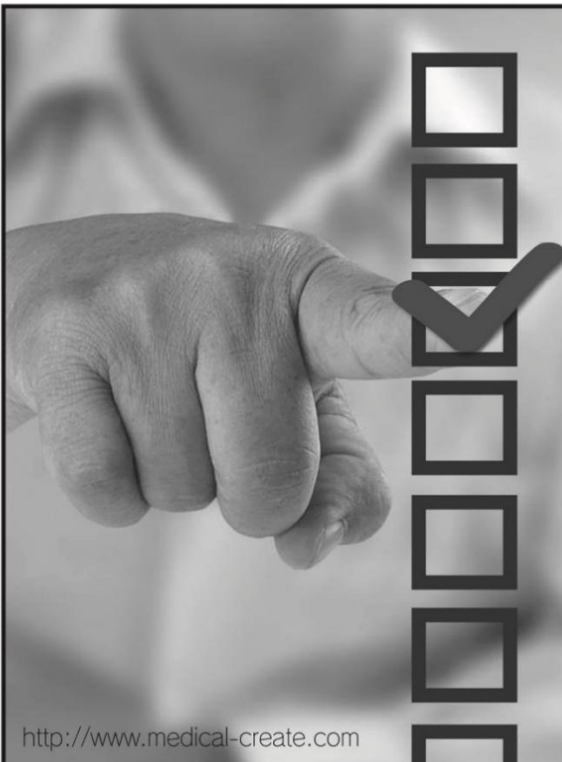
GEヘルスケア・ジャパン株式会社

カスタマー・コールセンター 0120-202-021

【受付時間】 9:00~18:00※土・日・祝を除く

gehealthcare.com

JB09455JA



システムに
求められるもの
それは
労力なしでプラスα

私たちメディカルクリエイトが、
放射線業務を力強くトータル支援。

4つの管理



<放射線業務を力強くサポートするシリーズ>

<http://www.medical-create.com>



MEDICAL CREATE

〒732-0827 広島市南区福荷町1-1 ロイヤルタワー 504 営業所(東京・大阪・中四国・福岡・東北・開発センター)

株式会社メディカルクリエイト

TEL 082・568・1920 FAX 082・263・1586



患者と医療従事者の安全のために— RaySafeの線量測定ソリューション

RaySafe i3

リアルタイム被ばく測定システム



RaySafe i3は、放射線被ばく線量を抑えるための迅速な対処ができるよう、医療従事者の被ばく状況をお知らせする個人線量計システムです。

RaySafe X2

インテリジェントX線測定器



RaySafe X2は、大型タッチスクリーン式ベースユニットと、小型半導体センサーを組み合わせた、放射線診断QA用のシンプルなX線測定器です。



For All Your Tomorrows

TOYO MEDIC

東洋メディック株式会社

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-8-5

TEL. (03) 6825-1645

<https://www.toyo-medico.co.jp> E-mail info@toyo-medico.co.jp

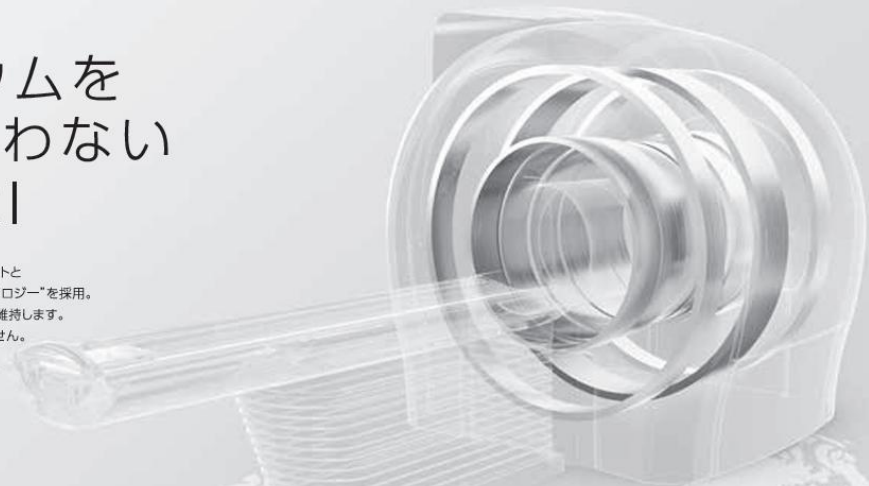
FUJIFILM

Value from Innovation

液体ヘリウムを まったく使わない 超電導MRI

専用の冷却機構を持ったZeroHeliumマグネットと磁場コントロールシステム“ZeroHeliumテクノロジー”を採用。液体ヘリウムをまったく使用せず極低温状態を維持します。液体ヘリウムによるクエンチ爆発[※]は発生しません。

「ZeroHelium」で取替事故や災害時への不安、復旧にかかる時間とコストの低減へ。



ECHELON Smart ZeroHelium



※超電導状態を失った時の爆発的なヘリウムの放出を表現しています

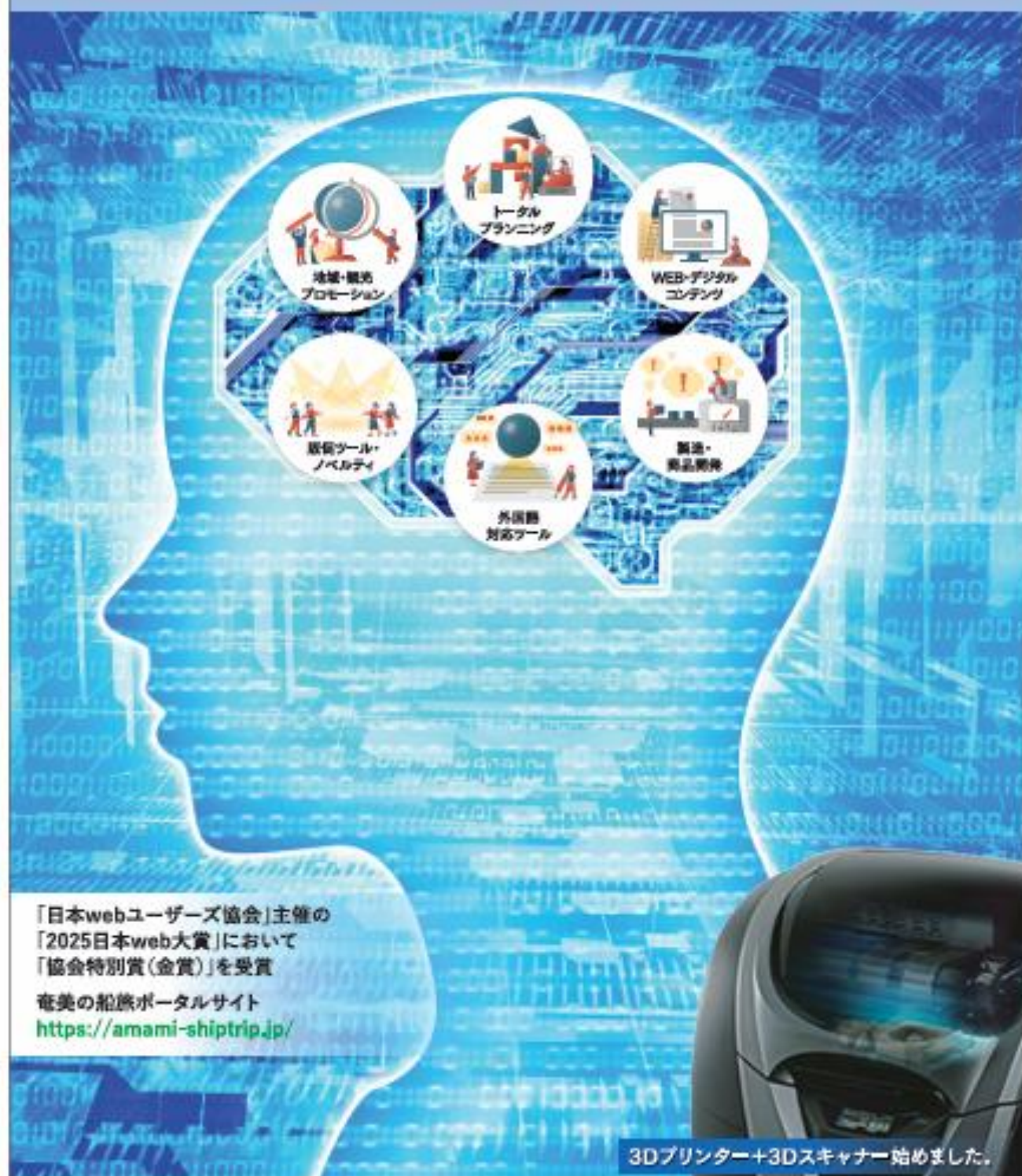
製造販売業者 富士フイルム株式会社
販売業者 富士フイルム メディカル株式会社
〒106-0031 東京都港区西麻布2丁目26番30号 富士フイルム西麻布ビル
fujifilm.com/fms/

販売名：MRイメージング装置 ECHELON Smart 認証番号：229ABBZX00028000

●FUJIFILM、および FUJIFILM ロゴは、富士フイルム株式会社の登録商標または商標です。●この広告に記載されている会社名、商品名は、富士フイルム株式会社またはグループ会社の商標または登録商標です。●ECHELON Smart ZeroHelium はZeroHeliumマグネットを搭載したモデルの呼称です。●仕様および外観は予告なく変更されることがあります。●本製品では一部再生資源を使用する場合があります。

発創をカタチに

～企画・デザイン・印刷・Web・動画～



「日本webユーザーズ協会」主催の
「2025日本web大賞」において
「協会特別賞(金賞)」を受賞
奄美の船旅ポータルサイト
<https://amami-shiptrip.jp/>

3Dプリンター+3Dスキャナー始めました。

株式会社 **トライ社**

【本社】鹿児島市南林寺町12-6
TEL.099-226-0815

【Web】<https://www.try-sha.com>



